

科目名	聖隷の理念と歴史
科目責任者	入江 拓
単位数他	2単位（30時間） 必修 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	「天地の間にこの子の五尺の体を入れてやるところがない」。結核が日本中に蔓延していた昭和のはじめ、行くところを失った一人の青年を連れた老人のこの言葉が聖隷の働きのはじめにありました。本科目では、聖隷にさまざまな形で関わってきた方々により、聖隷から何を学び・感じたのか、また何を継承していくべきなのかをお話しいただき、本学の重要な構成員である学生一人ひとりが聖隷の理念と働きを理解する機会とします。
到達目標	1. キリスト教精神を基盤とした「生命の尊厳と隣人愛」について理解し、自分の言葉で説明ができる。 2. 「聖隷」の言葉の意味、聖隷のはじまりを自分の言葉で他の人に伝えることができる。 3. 聖隷の理念の表明としての聖隷グループの各法人の活動を知り、その働きの広がりについて自分の言葉で説明ができる。 4. 自らが聖隷クリストファー大学で学ぶ意味を考え、表現することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ> 各学部担当教員： 入江拓（看護）、福重浩之（社福）、福田俊子（社福）、高橋大生（リハ） 第1回：聖隷との出会い：オリエンテーション 入江拓（看護学部教授） 第2回：聖隷の創立者たちの生きざま 長谷川了（学校法人聖隷学園理事長） 第3回：聖隷の教育が目指すもの 大城昌平（本学学長） 聖隷の理念とリハビリテーション 新宮尚人（リハビリテーション学部長） 第4回：聖隷の実践は介護から始まった 横尾恵美子（社会福祉学部長） 聖隷から教えられたこと 藤本栄子（看護学部長） 第5回：聖隷の理念と看護 大手歌子（元聖隷三方原病院総看護部長） 第6回：小さい者の一人を大切に作る社会を 稲松義人（社会福祉法人小羊学園理事長） 第7回：世界に広がる聖隷の働き 太田雅子（社会福祉学部こども教育福祉学科長） 第8回：聖隷リハビリの使命と活動～作業療法の視点から～ 伊藤信寿（リハビリテーション学部作業療法学科長） 聖隷リハビリの使命と活動～言語聴覚療法の視点から～ 谷哲夫（リハビリテーション学部言語聴覚学科長） 第9回：神戸聖隷福祉事業団のはたらき 西郷昌一（神戸聖隷福祉事業団神戸聖生園施設長） 第10回：「隣人愛」実践する 吉岡麻理（本学卒業生、元聖隷短大看護学科教員） 第11回：聖隷のはたらきとこどもたち 富永裕美（聖隷こども園めぐみ園長） 第12回：長谷川保とディアコニッセと十字の園 鈴木淳司（社会福祉法人十字の園理事長） 第13回：牧ノ原やまばと学園のはたらき 長沢道子（社会福祉法人牧ノ原やまばと学園理事長） 第14回：看護学生時代の私から見た人間長谷川保 入江拓（看護学部教授） 第15回：聖隷の働きと教会 森田 恭一郎（元遠州栄光教会牧師） ※春セメスターと秋セメスターで順番は異なります。

アクティブ ラーニング	本学ならではのユニークな科目です。聖隷の実践の積み重ねとそれに関わった人たちの生きざまから直接多くのことを感じ学んでください。感受性豊かな若い時に、自分が所属する集団がよって立つところの理念への理解を深め、その歴史から学ぶことは、今後の学びや将来の専門職としてのビジョンのみならず、生き方や人との出会い方に少なからず影響を及ぼすものです。聖隷歴史資料館（5 号館 1 階）の見学とレポート課題を必須とします。講師の先生方の話を聞き、積極的に聖隷歴史資料館を事前事後学習として複数回活用して感じたこと考えたことをレポートに反映させてください。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業への取り組み状況 30%（成績評価の大前提です）、レポート 50%、歴史資料館感想カード 20%
課題に対す るフィード バック	その都度の質問、意見をリアクションペーパーやメールで頂ければ、可能な限りお返事いたします。
指定図書	大学指定の「聖隷事業の理念と歴史」テキスト
参考図書	長谷川保『夜もひるのように輝く』講談社 長谷川保『神よ私の杯は溢れます』ミネルバ書房
事前・ 事後学修	聖隷で学ぶ学生として、また本学の大事な構成員として、聖隷歴史資料館の見学を義務付けています。図書館にある聖隷関係の関連図書で興味を惹かれるものを1冊は読み、聖隷の理念に関する理解を深め、上記レポート及び感想カードに反映させてください。目安時間 40 分。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	本講義はキリスト教の信仰を強要するものではありません。安心して自分を振り返り、永遠なるものに目を向ける時としてください。入江研究室は 3403（taku-i@seirei.ac.jp）です。あらかじめメールでアポイントをとっての来訪や、在室している場合の来訪はいつでも歓迎いたします。
実務経験に 関する記述	本科目は、聖隷の理念に基づく医療・福祉・教育の関連施設および、諸事業における実務経験者によりなされます。

科目名	キリスト教概論
科目責任者	永井 英司
単位数他	2単位（30時間） 必修 春・秋
DP番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	聖書に初めて接する人がほとんどではないかと思います。 15回の授業を通して旧、新約聖書を概観し、中心的な教えを学びます。また、保健医療福祉の専門職者に必要な「生命の尊厳」と「隣人愛の実践」について学びます。授業は聖書を用いながら進めますので、必ず聖書を持参して下さい。 参考図書の『キリストの教え』も適宜引用しながら進めます。
到達目標	1. キリスト教「聖書」全般の基礎知識を習得する。 2. キリスト教「聖書」の重要な教えを習得する。 3. 建学の精神の意味、また大学礼拝に臨む意義を理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 聖書について 課題レポート等々について、 正典としての聖書 礼拝 神と人間 イエス・キリスト 教会等々について 第2回：旧約聖書の理解のために 創造物語について 第3回：旧約聖書の理解のために 神話的な物語から歴史的な物語について 第4回：律法の教えから 十戒 レビ記 申命記 詩編 箴言 コヘレトの言葉について 第5回：旧約聖書が語る歴史から ヨセフ物語 モーセとアロン 罪と救いの待望 について 第6回：旧約聖書のメシア預言について マラキ書から福音書へ 第7回：新約聖書の理解のために イエス・キリストの生涯について 第8回：使徒言行録と使徒パウロから 12弟子とパウロの働きについて 第9回：イエスの奇跡物語と譬え話から（1） 「山上の説教」等について 第10回：イエスの奇跡物語と譬え話から（2） 「善いサマリヤ人」等について 第11回：イエスの十字架刑をめぐって（1） マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネによる福音書から 第12回：イエスの十字架刑をめぐって（2） マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネによる福音書から 第13回：旧約聖書と新約聖書の関係について 預言と成就について 第14回：隣人愛について ヨハネ福音書13：1～20節を中心に 第15回：授業の振り返りとまとめ

アクティブラーニング	講義中心の科目です。 近隣の教会を訪ねてみることをお勧めします。
授業内のICT活用	なし
評価方法	1. 「キリスト教概論」の受講者は大学礼拝への出席が義務となります。 2. 『夜も昼のように輝く』読書感想レポート（25%）、課題レポート（25%）と定期試験（50%） 再試験は実施しない。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーへの対応は、授業の中で行います。
指定図書	『聖書 新共同訳』日本聖書協会発行 『夜も昼のように輝く』長谷川保著・聖隷学園
参考図書	『キリストの教え』鈴木崇巨著・春秋社など 授業の中で随時紹介します。
事前・事後学修	聖書の通読 大学礼拝への出席 キリスト教関連の文献や辞書の活用。目安時間 40分。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室はキリスト教センター内にあります。時間等については初回の授業で説明します。
実務経験に関する記述	なし

科目名	キリスト教の歴史
科目責任者	永井 英司
単位数他	1 単位（15 時間） 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	講義ではキリスト教の歴史を概観します。 キリスト教の誕生から現代までの流れを概観することにより、キリスト教の系統的理解をすると共に、キリスト教が歴史の中で果たした役割についても学びます。
到達目標	1. キリスト教の歴史を習得する。 2. キリスト教主義大学である本学の基本的理念：隣人愛を学ぶ。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：導入：キリスト教について 律法の宗教から愛（恵み）の宗教へ 第2回：「われらの父祖アブラハム」 ヤコブからイスラエルへ 神聖政治から王制へ 使徒言行録 11：26 キリスト者と呼ばれるように 第3回：キリスト教の発展について（その1） イエスの12弟子と使徒パウロの宣教活動 マタイ 16：18～わたしの教会を建てる 使徒言行録 2：41～8：1 仲間からエルサレム教会へ 迫害からローマ帝国の国教へ コンスタンティヌス大帝の役割 第4回：キリスト教の発展について（その2） 聖書の誕生：正典化について 二つの「正統的な教会」 ヨーロッパのキリスト教化 教皇グレゴリウス一世と国王カール一世 第5回：中世のキリスト教と宗教改革について プロテスタント教会の誕生 マルチン・ルター 第6回：イギリスからアメリカへ渡るキリスト教 イギリス国教会とピューリタン ピューリタンと新世界アメリカ・・・そして日本へ 第7回：日本とキリスト教について キリスト教伝来とキリシタン 迫害 聖隷クリストファー大学の礎にあるもの 第8回：現代世界とキリスト教 多様なキリスト教の教派 今日の課題 社会とのかかわり *授業は世界史およびキリスト教概論の既修を前提に進めていきます。

アクティブ ラーニング	講義中心の科目です。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	課題レポートの提出（100％）によって評価する。再試験は実施しない。
課題に対す るフィード バック	リアクションペーパーへの対応は、授業の中で行います。
指定図書	『聖書 新共同訳』日本聖書協会発行 『キリスト教の歴史』小田垣雅也 講談社学術文庫
参考図書	授業の中で随時紹介します。
事前・ 事後学修	キリスト教関連の文献や辞書の活用 聖書の通読 大学礼拝への出席。目安時間 40 分。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	研究室はキリスト教センター内にあります。時間等については初回の授業で説明しま す。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	哲学
科目責任者	山下 秀智
単位数他	2単位（30時間） 選択 春
DP番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	私の『「いのち」を生きる』（晃洋書房）をテキストに、「いのち」について哲学的に思索を深めたい。講義は、受講生の意見や質問にできるだけ答えながら進めたいので、レスポンスカードは丁寧に作成してもらいたい。なお、パワーポイントを用いて、重要人物、語句等について補足する。
到達目標	1. 「いのち」について、哲学的に理解すること。 2. 哲学的な思索の特徴をつかむこと。 3. 各自が思索する際の基礎的知識を身につけること。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：人間の属性 第2回：大いなるいのち 第3回：われ頑石なり 第4回：鏡自動車 第5回：ハイデガーの問い 第6回：相対と絶対 第7回：弁証法 第8回：『死に至る病』 第9回：回心と瞬間 第10回：将来と受取り直し 第11回：精神（霊性） 第12回：自己 第13回：倫理と宗教 第14回：血縁と派閥 第15回：まとめ

アクティブ ラーニング	講義中心の科目です。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	レスポンスカード 50%、レポート 50%
課題に対す るフィード バック	レスポンスカードの内容については、次回授業の最初に回答等を行う。
指定図書	山下秀智『「いのち」を生きる』（晃洋書房）、2019
参考図書	授業中に随時連絡する。
事前・ 事後学修	授業中に出てきた重要語については、分からない点があれば、自分で調べ、また次回分のテーマについて、関連用語などを調べておく。目安時間 40 分。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	文学
科目責任者	渡辺 泰宏
単位数他	2単位（30時間） 選択 春・秋
DP番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	本授業では、奈良時代から平安時代までの文学作品を取り上げ、文学の芸術性を学ぶ。また、日本古代の文学作品を読むことによって、Yes と No がはっきり言えない、あるいは桜花や朧月のようなぼんやりとしたはかないものを好む、日本独自の文化というものをも探してみたい。さらに、学問の基本的考え方を学んで、日本文学史の問題を解明する作業も行う。
到達目標	1. 古事記・万葉集から、日本の、神・天皇・宗教について理解する 2. 万葉集・古今和歌集から、日本独自の文化について理解する 3. 古今和歌集・伊勢物語から、学問の基本的な考え方を理解する
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：本授業の説明・芸術としての「文学」 第2回：古事記（日本の神々とイザナギ・イザナミ） 第3回：古事記（イザナギ・イザナミと国生み） 第4回：古事記（月読命と旧暦、天照大御神とスサノオ） 第5回：古事記（古事記と日本の宗教） 第6回：古事記（日本の神と三種の神器、天皇家） 第7回：万葉集（万葉集と日本の文化） 第8回：万葉集（神としての天皇） 第9回：万葉集（庶民の生活と昔話） 第10回：古今和歌集（古今集と紀貫之） 第11回：古今和歌集（和歌と日本の文化） 第12回：古今和歌集・伊勢物語（古今集とは？ 伊勢物語とは？） 第13回：伊勢物語（伊勢物語と古今集の関係 1） 第14回：伊勢物語（伊勢物語と古今集の関係 2） 第15回：伊勢物語（伊勢物語の成立説）

アクティブ ラーニング	○PBL（課題解決型学習） 授業の中で課題に取り組んでもらう回を設けてある（第 14 回）。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	定期試験を 100 点満点とするが、課題をクリアーした場合は、10 点を限度として加点する。 ただし、100 点を超えないものとするので、合計 100 点。 なお、再試験は行わない。
課題に対す るフィード バック	リアクションペーパー・課題に対するフィードバックは、次の授業中に行う。
指定図書	テキストとして、プリントを配布する。
参考図書	なし
事前・ 事後学修	前もって、テキストを配布するので、指定した部分をあらかじめ読んでくること。目 安時間 40 分。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	時間については初回授業時に提示する。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	心理学
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	2単位(30時間) 選択 春・秋
DP番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	人間理解をする上で必要な心理学的知識の基礎について講義を行う。心理学の領域は多岐にわたるため、代表的な各領域の基礎的な事柄について、具体的事例を通して人間理解の基本的な視点・理論を紹介する。
到達目標	1. 対人援助の専門職として人間理解（自己理解・他者理解）をする上で必要かつ基礎的な心理学的知識を修得する。 2. 自分や他者を理解することや人間の心に対する興味・関心を高める。 3. 心理学的知識を得ることで、自分自身や他者との関わりについて考える。
授業計画	第1回 心理学とは何か 第2回 感覚・知覚・認知1：感覚・知覚の一般的特徴と個人差 第3回 感覚・知覚・認知2：知覚の体制化、錯視 第4回 感覚・知覚・認知3：知覚の恒常性、文脈の効果、選択的注意 第5回 人格・性格1：性格検査①（エゴグラム） 第6回 人格・性格2：性格検査②（20答法） 第7回 人格・性格3：性格検査③（性格の理解） 第8回 人格・性格4：性格検査の種類 第9回 人格・性格5：性格理論、気質 第10回 記憶1：記憶のメカニズム 第11回 記憶2：短期記憶、長期記憶 第12回 記憶3：忘却、目撃証言 第13回 学習理論1：条件づけ 第14回 学習理論2：観察学習、動機づけ 第15回 適応：ストレスとコーピング

アクティブラーニング	・心理検査(性格検査)を実際に回答・結果の整理をしながら、心理検査の特徴を学ぶ。 ・ストレスチェックリストを実際に回答・結果の整理をして、自らの状況を知る。
授業内のICT活用	クリッカーを使って授業内での理解度確認などを行う双方向型授業を実施します。
評価方法	定期試験70％、授業への取り組み状況30％(リアクションペーパー、WebClassでの事後課題、クリッカーの回答を含む)
課題に対するフィードバック	前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントや回答、及び、WebClassでの事後課題の解説などをパワーポイントで映しながら口頭で行う。また、前回の内容のおさらいのための設問(2～3問)をクリッカーで回答してもらい、その場で結果と解説をフィードバックする。
指定図書	なし。
参考図書	なし。
事前・事後学修	授業中配布された資料・プリントに沿って毎回復習を行う。また、WebClassでの事後課題に取り組む。さらに、講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回40分程度行うこと。WebClassでの事後課題は5～13回目の間に8回出す予定。
オープンエデュケーションの活用	なし。
オフィスアワー	長峰伸治（看護学部）1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示する。直接研究室に来ていただいても良いが、会議等で不在の時もあるので、事前にメールで連絡いただけると、確実に時間をとって対応できる。メールでの相談は随時受け付けている。
実務経験に関する記述	なし。

科目名	倫理学
科目責任者	山下 秀智
単位数他	2 単位（30 時間） 選択 秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	生命科学の急速な進歩により、人間の自然な誕生と死の現場に、科学技術が人為的な介入を開始して久しい。今や、素晴らしいとだけは言っておれない、様々な問題が噴出してきている。授業では、生命倫理を中心に、人間の生と死について、改めて思索を深めたい。授業は、パワーポイントを用い、ビデオなども見ながら、分かりやすく進める。
到達目標	1. 生命倫理学の基礎知識を習得する。 2. 現代における死生観の可能性を探る。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：生命倫理学の展開 第 2 回：インフォームド・コンセント 第 3 回：遺伝子の解読 第 4 回：西洋医学の伝統 第 5 回：死の隠蔽・タブー化 第 6 回：出生前診断・中絶 第 7 回：生殖技術 第 8 回：脳死と臓器移植 第 9 回：安楽死・尊厳死 第 10 回：エイズ・薬害 第 11 回：高齢化社会 第 12 回：パーソン論 第 13 回：仏教の生命観 第 14 回：キリスト教の生命観 第 15 回：生命の諸次元

アクティブ ラーニング	講義中心の科目です。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	レスポンスカード 50%、レポート 50%
課題に対す るフィード バック	レスポンスカードの内容については、次回授業の最初に回答等を行う。
指定図書	小泉博明他編『テーマで読み解く生命倫理』教育出版株式会社、2016
参考図書	授業中に随時連絡する。
事前・ 事後学修	テキストの該当箇所、配布資料で、予習・復習する。目安時間 40 分。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	女性学
科目責任者	須藤八千代
単位数他	2単位（30時間） 選択 春
DP番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	女性学だけでなく男性学も加えて展開する。教養科目としての女性学を男性学と繋げることによってジェンダーの視点を学生の具体的な経験や身近な問題を通じて理解するよう導く。 指定テキストの章立てに沿って女性学（男性学）全般を学ぶが、毎回、新聞、映画、絵本、メディア情報など同時進行の資料を活用する。
到達目標	1. 女性学と男性学によってジェンダーを学ぶ。 2. ジェンダーの視点から自分の問題を認識し解決することができる言葉と知識を得る。 3. 女性学・男性学の知識から世界を読み解く。 4. 福祉医療専門職として不可欠なジェンダー視角を身につける。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：女性学・男性学、ジェンダーって何？ 第2回：「私の生き方と実践 - 浜松 S&S ネットワークから」 第3回：女であること・男であること（1章） 第4回：男らしさ・女らしさ（2章） 第5回：あなたのジェンダー感度は（3章） 第7回：恋愛の女性学・男性学（4章） 第8回：仕事とジェンダー（5章） 第9回：家族とジェンダー（6章） 第10回：子育て・老いのジェンダー（7章） 第11回：病気や障害とジェンダー 第12回：売買春、性暴力・DVとジェンダー 第13回：相談の女性学と男性学：男女共同参画センター相談室から 第14回：世界の女性学・男性学（8章） 第15回：男女共同参画社会とは（9章）

アクティブ ラーニング	テキストとテーマのなかからキーワードを示し、毎回400字程度の小レポートを授業の後半20分で書いて出す。学生に発言を求め双方向の授業をする。
授業内の ICT 活用	インターネットから興味深い情報を引き出し、学生と共有する。学生はスマホ検索をしながらレポートの作成をする。
評価方法	授業のテーマについてテキストを参照し書く小レポートで評価する。(70%) 試験(基本的な概念やキーワードに関する理解度をみる)(30%)
課題に対す るフィード バック	定期試験の解答例の提示、小レポートの意見、評価を提示する。
指定図書	「女性学・男性学～ジェンダー論入門第3版」(有斐閣アルマ) 伊藤公雄・樹村みのり・ 國信潤子〔著〕
参考図書	「ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみたーあなたがあなたらしくいられるた めの29問」佐藤文香監修一橋大学社会学部佐藤文香ゼミ生一同・著 明石書店
事前・ 事後学修	事前に授業の順番に沿って指定テキストを読んでくる。(9回) 事後には新聞、テレビ、 インターネットなど多様なチャンネルから関連情報をキャッチする。(15回)
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に、もしくは教務事務センターを介して受け付ける。
実務経験に 関する記述	講師はソーシャルワーカー経験31年。現在も公的、民間の相談実務に関与している。 授業には地域の実務者、当事者に参加してもらう。

科目名	生活福祉文化論
科目責任者	坂本 道子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	保健医療福祉には隣接する学問が多くあり、その考えと実践は、単に専門分野だけでなく、生きることすべてに関わる問題です。本講座では、多くの実践活動を学ぶことを通して、「生活」「福祉」「文化」の基本となる「Wellbeing (よい存在)」について考え、実践を創造する力を育んでいきます。
到達目標	1. 対人援助・社会支援の対象を多角的に理解し、それぞれのニーズや背景要因を理解する。 2. 他者をさまざまな側面から理解できる。 3. 「生活」「福祉」「文化」のものの見方を習得する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ ＜担当者＞坂本道子 授業は、視聴覚教材を含め、多くの実践に触れながら以下のような内容で実施します。 1. 「生活福祉文化」とは何か——パイオニアからの学び 第 1 回：オリエンテーション：授業の進め方、多角的なものの見方、参加型双方向授業 第 2 回：当たり前の「生活」を疑う——生活学・生活福祉論 第 3 回：「生活文化」とは 第 4 回：「福祉文化」とは 第 5 回：「生活福祉文化」とは——患者・利用者・生活者からの視点 2. 生活福祉文化の実践例——福祉・リハ・看護場面で 第 6 回：日常生活と生活福祉文化（衣食住、美容、交通、デザイン等） 第 7 回：芸術活動と生活福祉文化（音楽・絵画・書道、陶芸等） 第 8 回：遊びと生活福祉文化（余暇、レクリエーション、趣味、旅行、生涯教育等） 第 9 回：健康・スポーツと生活福祉文化 第 10 回：自然・動物と生活福祉文化（ペット、動物、園芸等） 3. 生活福祉文化としての展開——地域で築く生活福祉文化 第 11 回：子ども・若者と生活福祉文化 第 12 回：高齢者と生活福祉文化 第 13 回：障害者と生活福祉文化 第 14 回：女性と生活福祉文化 第 15 回：外国人と生活福祉文化、海外の生活福祉文化

アクティブ ラーニング	課題解決型学習を展開。授業のなかで教員と双方向のコミュニケーションを行い、主体的に考え、学ぶ態度を涵養する。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業態度 20%、毎回授業終了後 WebClass に入力 20%、定期試験レポート 60%（評価基準はルーブリックで示す）
課題に対する フィード バック	授業のなかで取り上げる
指定図書	印刷物を随時提示する。またそれを Webclass にアップする
参考図書	京都ノートルダム女子大学生活福祉文化学科編 2004『生活へのまなざし』ナカニシヤ出版 日本福祉文化学会『実践。福祉文化シリーズ全 5 巻』『新・福祉文化シリーズ全 5 巻』明石書店 石川実・井上忠司編 1998『生活文化を学ぶ人のために』世界思想社、 一番ヶ瀬康子・尾崎新編著 1994『講座生活学 7 生活福祉論』光生館
事前・ 事後学修	1, WebClass や授業中に配布された資料等を事前・事後ともに熟読し、授業内容を理解する。 2, 授業によって得た知識を、生活の中で実体験や社会問題との関連性について考察を深める(あわせて 40 分)
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	坂本研究室（2612）時間は授業で提示する
実務経験に 関する記述	本科目は「対人援助技術」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	レクリエーション概論
科目責任者	和久田 佳代
単位数他	2単位（30時間） 選択 春・秋
DP番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	レクリエーションは、医療・福祉・教育の様々な場面で活用されている。レクリエーションの概念と意義を理解したうえで、レクリエーション支援、レクリエーション計画の考え方を学び、保健・医療・福祉・教育の現場における支援に生かすことができるようになる。
到達目標	1. レクリエーションとは何か、現代社会においてレクリエーションがいかに大切であるかを理解する。 2. レクリエーション支援、レクリエーション計画の考え方を理解し、保健・医療・福祉・教育の現場における支援に生かすことができるようになる。 3. 自分自身のレジャー、レクリエーションの必要性を知り、より心豊かな生活を指向できるようになる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：レクリエーションとは何か 学びへの導入 レクリエーションとは〇〇〇である 〇〇は一つではない 第2回：医療・福祉分野におけるレクリエーションの実際（1） 障害者スポーツ、絵画療法 現場見学の説明 第3回：日本におけるレクリエーションの歴史 日本におけるレクリエーションは〇〇〇により普及した 第4回：人間の権利としてのレクリエーション 障害者にとって〇〇〇〇も喜びなのだ 第5回：レクリエーションの本質 レクリエーションとは〇〇的なものであるがゆえに〇〇である 第6回：レジャーを考えるー余暇生活設計ー 日本人は〇〇時間の約3倍の〇〇時間をもっている 日本人が最も多く自由時間を費やしているのは〇〇である 第7回：レジャーへの理解を深める 〇つの楽しい、自由時間の〇つの過ごし方 第8回：レジャー・レクリエーションの視点から、子どもたちの問題を考える 遊び成立の条件〇つの間 〇〇〇に子守りをさせないで！ 第9回：レクリエーション援助とは 個人へのレクリエーション援助 入院している高齢者の願いは何か？ 第10回：集団を介した援助 レクリエーション環境の整備 行事の意味 すてきな保育園の環境づくり 第11回：レクリエーション計画 企画の基本要件〇W〇H アセスメント入門 第12回：医療・福祉分野におけるレクリエーションの実際（2） 回想法、遊びリテーション 第13回：医療・福祉分野におけるレクリエーションの実際（3） 障害者スポーツ、生きがい療法 第14-15回：福祉現場におけるレクリエーションの実際（現場見学） 静岡バリアーズ（車椅子ツインバスケット）、浜松ボッチャ倶楽部 COOL、 絵画教室（第2アドナイ館） <受講者へのメッセージ>履修希望の学生は、第1回目から出席してください。履修希望者が履修可能人数より多い場合、第1回目の出席者を優先します。

アクティブ ラーニング	○ディスカッション、○現場見学 ピアタイム（ペアで意見交換）、アニマルタイム（マイクで発表）、WebClass への学び の記録
授業内の ICT 活用	WebClassにて学びの確認をします。
評価方法	レポート60%、授業への取組（関心・意欲・態度、WebClassへの学びの記録）40% ・レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示す る。
課題に対す るフィード バック	WebClass のタイムラインやメールを活用し、フィードバックする。
指定図書	なし（資料配布）
参考図書	神谷美恵子『生きがいについて』みすず書房 土門拳『腕白小僧がいた』小学館 リンダ・グラットン『LIFE SHIFT 100年時代の人生戦略』東洋経済新報社 河合雅男『子どもと自然』岩波書店 ノーマン・カズンズ『笑いと治癒力』岩波書店 他 授業時に紹介する
事前・ 事後学修	授業に集中できるよう、体調を整えて授業に臨む。 毎回、授業後に WebClass に学びを記録し、各回の事後学修課題に取り組む。 授業での学びを日常生活、実習等に活用する。目安時間 40 分。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	日本障がい者スポーツ協会 障がい者スポーツ映像配信 を活用する。
オフィス アワー	和久田佳代 社会福祉学部 2709 時間については初回授業時に提示
実務経験に 関する記述	なし

科目名	音楽
科目責任者	金山 智彦
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 春
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	音楽に、苦手意識を持つ人でも、音楽が好きになることを目指して、音楽と向き合う科目。「音楽とは？」という問いを意識しつつ、様々な観点から音楽について考察し、実践することを通して、音楽についての理解を深め、音楽に対する感性を磨く。さらにこの体験を、仕事や日常生活に活かし、生涯にわたり、音楽文化に親しみ、豊かな人生を歩むことを目的とする。
到達目標	1. 音楽一般について、知識を身につけ、理解を深める。(音楽理論、歴史、様式など) 2. 楽器演奏、歌唱(合唱)、鑑賞などを通して、音楽の素晴らしさを体感する。 3. 音楽と生活の関りを意識し、自他の人生(社会)をより豊かにするために、音楽を活用することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション & What' music? (あなたにとって音楽とは? 音楽は〇〇〇の叫び?) 第2回：キリスト教と音楽いろいろ! (グレゴリオ聖歌 から C.C.M まで) 第3回：指揮者になっ Ciao! (自分の思いを伝えよう! Conductor の存在意義とは?) 第4回：What a wonderful 日本の音楽教科書! (あの素晴らしい小学校の音楽をもう一度!) 第5回：西洋音楽と楽譜の歴史 Part 1 (音楽のルーツとは/どう記録する? あなたの歌をあなたなら…) 第6回：西洋音楽と楽譜の歴史 Part2 (ド・レ・ミ)はどこから? ドは ドーナツのド) 第7回：西洋音楽と楽譜の歴史 Part3 (調の確立と崩壊と!「ちょうちょうハちょうちょう?」 Challenge the 現代音楽!) 第8回：「ドレミの歌」に見る作・編曲の極意! (誰でも曲が作れ Chau!) 第9回：ゴスペルソングを歌おう!Part1 (『こげよマイケル』は何を漕ぐ?『Oh Happy Day』『Amazing Grace』) 第10回：ゴスペルソングを歌おう!Part2 (Hallelujah & Amen ・ Christmas Songs) 第11回：ゴスペルソングを歌おう!Part3 (a cappella ア・カペラに挑戦!『Kum Ba Yah』って何語?) 第12回：楽器あれこれ! 管・弦・打・鍵 ! (グラヴィチェンバロ コル ピアノ エ フォルテとは?) 第13回：声楽と器楽(編成と形式と)あれこれ! (交響曲とは? 協奏曲とは? クワルテットとは?) 第14回：音楽とイメージ(映画の中の音楽・日常生活の中の音楽 オペラと歌舞伎とフィギュアスケートと…) 第15回：『Let' s Sing The Final!』 (まとめ)

アクティブラーニング	本授業では、テーマに関連する実技・実習を随時行う。(合唱, 合奏, 鑑賞, 創作などを含む)
授業内のICT活用	インターネット上の無料で利用できる各種資料を活用する。(音楽音源, 映像資料など)
評価方法	授業への取り組み状況、課題提出物（リアクションペーパー）：30% レポート（定期試験）：70%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー、レポートにコメントなどを記入し、返却する。
指定図書	なし
参考図書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	授業のテーマに関連する音楽を, 日常生活（仕事）の中で具体的に活用したり, 実践することを試みる。(歌唱、楽器演奏、音楽鑑賞などを含む。原則1回40分で4回以上) ※読譜能力、歌唱力、楽器演奏能力のレベルは特に問わない。
オープンエデュケーションの活用	インターネット上の無料で利用できる音楽の音源や映像資料を授業で活用したり, 参考資料として提示する。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「元ヤマハ音楽教育システム指導スタッフ、元浜松市立中学校音楽講師、音楽教室主宰、幼稚園・キリスト教会などでのコンサート活動」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	音楽
科目責任者	二宮 貴之
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	この授業は一般教養として広く音楽に触れ、知識や技術を磨き、感性を高め教養を身に付けるための科目です。日本や世界の音楽を鑑賞し、歌唱等の音楽表現を通して広義に音楽について触れ学修します。
到達目標	1. 音楽理論を学び音楽の構造を捉えることができる。 2. 音楽の鑑賞を通して曲の構成や曲想について感受することができる。 3. 歌唱の活動を通してハーモニーの美しさを感じ声で表現することができる。 4. 世界の様々な音楽のジャンルに触れ比較することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回： オリエンテーション 第 2 回： 音楽の基礎と鑑賞 音楽理論と世界の名曲 日本 ドイツ 第 3 回： 音楽の基礎と鑑賞 音楽理論と世界の名曲 アメリカ フランス 第 4 回： 音楽の基礎と鑑賞 ブラスバンドの世界 楽器の種類と音色 第 5 回： 音楽の基礎と鑑賞 ブラスバンドの世界 ブーラシアンブラス 第 6 回： 音楽の基礎と鑑賞 オーケストラの世界 第 7 回： 音楽の基礎と鑑賞 世界の民族音楽の世界 東南アジア ヨーロッパ 第 8 回： 音楽の基礎と鑑賞 世界の民族音楽の世界 アフリカ 南アメリカ 日本 第 9 回： 音楽の基礎と鑑賞 J ポップスの世界 ジャズの世界 第 10 回： 音楽の基礎と鑑賞 オペラの世界 第 11 回： 美しいハーモニーで歌おう 心と体の開放 二声体の合唱曲の練習と仕上げ 第 12 回： 美しいハーモニーで歌おう 心と体の開放 二声体の合唱曲の練習と仕上げ 第 13 回： 子どもの発達と音楽の世界 第 14 回： 映画音楽の世界 第 15 回： 世界の音楽

アクティブ ラーニング	音楽を視聴し言葉で批評したり合唱曲を歌う等の活動を通して体験的に学びを深化させていきます。
授業内の ICT 活用	動画の視聴を通して演奏技術向上に向けた ICT 活用による学修を展開する。
評価方法	授業態度 20%、個別課題 40%、定期試験 40%（レポート） ※個別課題では、各自のお気に入りの曲を紹介してもらいます。
課題に対す るフィード バック	実技の場面ではグループ及び個人に対してアドバイスを致します。
指定図書	なし
参考図書	音楽の鑑賞資料と基礎学習（教育芸術社）
事前・ 事後学修	各自講義の中で扱った曲について練習しておいてください。楽譜を手掛かりに事前・事後学修として音をとったり、リズムを確認したり、音楽を視聴するなどしましょう。目安時間 40 分。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	ピアニストの演奏会に参加し生演奏を聴くことで感受性を養う。
オフィス アワー	初回時にお伝えします。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	健康スポーツ論
科目責任者	安田 智洋
単位数他	1 単位（15 時間） 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	健康な人生を過ごすための生活処方を身体活動（運動・スポーツ）、栄養（食事）、休養を総合的に学習し、特に身体活動による健康づくりを中心に健康寿命の延伸を考える。
到達目標	1. 専門基礎科目の学修を通して、看護学の基礎となる知識を修得できる。 2. 運動・栄養・休養を学習し、自分自身と周りの人の健康に関心をもつ。 3. 学習した科学知見を単なる知識として留めるのではなく、日常生活での実践につなげる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：健康と健康増進の概念（国民健康づくり施策、健康日本 21） 第 2 回：栄養摂取と運動（健康と栄養、運動時のエネルギー源） 第 3 回：肥満と痩せ（体脂肪の役割、肥満と痩せの判断基準、リバウンド現象） 第 4 回：安静時代謝・メッツ（安静時代謝や運動の消費カロリー） 第 5 回：メタボリックシンドローム・サルコペニア・フレイル（加齢に伴う身体変化） 第 6 回：骨強度と生活習慣（骨粗鬆症の危険因子や予防対策） 第 7 回：筋力トレーニング（適切な筋力トレーニングの条件や筋肥大のメカニズム） 第 8 回：有酸素トレーニング（有酸素能力と生活習慣病、有酸素トレーニングの条件） ・必要な専門知識を幅広く身につけることが目的であるが、覚えるだけではなく、日々の健康増進で活かすように心がける。 ・履修者は 80 名を上限とする。 ・授業には毎回筆記用具とパソコン（またはスマートフォン）を準備すること ・授業中、態度不良（私語、携帯電話の使用など）の学生には退室を促すことがある。

アクティブ ラーニング	PBL、WebClass の活用
授業内の ICT 活用	WebClass を利用し、授業に関するコメント（課題・リアクション）を入力する（各自のパソコンまたはスマートフォンで入力）。
評価方法	定期試験 50%、授業内小テスト 30%、授業態度 20%（計 100%）
課題に対する フィード バック	小テストの解説、課題への回答・リアクションに対するコメント
指定図書	なし
参考図書	これからの健康とスポーツの科学 第4版 （KS スポーツ医科学書）
事前・ 事後学修	・事前には、各テーマの内容を予習する（約 40 分）。 ・授業に関連する資料は、WebClass にファイルで示す（適宜）。 ・事後学修では、前回の授業内容に対する復習を行い、小テストに備える（約 40 分）。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	看護学部、1206 研究室、火曜・金曜 12:30～17:00
実務経験に 関する記述	本科目は「博士（理学）、中学校教諭一種免許（理科、保健体育）、高等学校教諭一種免許（理科、保健体育）、NSCA 認定 CSCS、健康運動指導士、赤十字救急法救急員」の資格を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	健康スポーツ実践
科目責任者	安田 智洋
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	身体運動(運動・スポーツ)の実践と併せ、様々な生理学的指標を計測しながら科学的に学習し、健康づくりのための身体活動の必要性とその効果を考える。また、自分の生活習慣や体力レベルから日本の健康づくり施策(健康日本21)を理解・学習する。
到達目標	1. カリキュラムの特徴を理解し、人間形成のための教養科目の履修を通し、教育システムを活用して、自ら学ぶ姿勢、自分の適した学習方法を確立できる。 2. 個人の体力の違いを学習し、それらに応じた運動、身体活動の実践方法を理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：ガイダンス(初回のみ着替え不要*欠席者は教員へ個別連絡が必要) 第2回：Pre 体力測定1 (質問紙法、体組成、血圧、敏捷性) 第3回：Pre 体力測定2 (筋力・筋パワー、バランス能力、有酸素能力) 第4回：つもりと実際 (筋力・瞬発力の推定値と実測値の比較) 第5回：呼吸循環と健康 (有酸素運動中の呼吸数と心拍数) 第6回：ロコモティブシンドローム・サルコペニア (超音波法や簡易評価法など) 第7回：有酸素運動 (推定心拍数から運動強度を算出) 第8回：硬式テニス (運動時の心拍数・主観的運動強度を測定) 第9回：バスケットボール (運動時の心拍数・主観的運動強度を測定) 第10回：バドミントン (運動時の心拍数・主観的運動強度を測定) 第11回：バレーボール (運動時の心拍数・主観的運動強度を測定) 第12回：卓球 (運動時の心拍数・主観的運動強度を測定) 第13回：レクリエーションスポーツ (運動時の心拍数・主観的運動強度を測定) 第14回：Post 体力測定1 (Pre の測定値と比較) 第15回：Post 体力測定2 (Pre の測定値と比較)・まとめ ・学内の健康診断は必ず受診し、運動に影響する所見がある場合は、必ず担当教員まで相談する。また既往歴(これまで有したことのある病気や障害・傷害など)がある場合も同様。 ・第1回に健康確認や授業の重要事項を説明(欠席者は第2回までに教員への個別連絡が必要) ・履修者は40名までとする(履修者の人数に応じて授業内容の一部を変更する場合がある)。 ・硬式テニスでは屋外シューズ、それ以外では室内シューズを必ず用意すること。 ・スポーツウェアを着用し、アクセサリ・時計の着用は禁止する。 ・受講者全員が楽しく授業が行えるよう、集団の一員としての自覚をもって行動すること。

アクティブ ラーニング	グループワーク、PBL、学修ポートフォリオ
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	基本技術の習得状況・達成度 10%、レポート課題 50%、授業態度 20%、機器・用具の 取り扱いと準備・片付け 10%、服装 10%（計 100%） レポートの提出期限は厳守。
課題に対す るフィード バック	レポート・リアクションペーパーへのコメント
指定図書	なし
参考図書	教養としての身体運動・健康科学（東京大学身体運動科学研究室） 健康・フィットネスと生涯スポーツ（東海大学一般体育研究室）
事前・ 事後学修	毎回の授業前には関連事項を予習する。授業後は授業で得られたデータをまとめ、 レポートを作成しながら復習する（約 40 分）。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	看護学部、1206 研究室、火曜・金曜 12:30～17:00
実務経験に 関する記述	本科目は「博士（理学）、中学校教諭一種免許（理科、保健体育）、高等学校教諭一種 免許（理科、保健体育）、NSCA 認定 CSCS、健康運動指導士、赤十字救急法救急員」の 資格を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	スポーツ I
科目責任者	安田 智洋
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	学生の体力レベルと技術レベルを考慮し、ラケットスポーツ（硬式テニス、卓球、バドミントン）を利用して段階的に運動の基礎を充実するための授業を展開する。 様々なラケットスポーツを行い、楽しみながら自己の体力と運動技術に対する理解を深める。
到達目標	1. カリキュラムの特徴を理解し、人間形成のための教養科目の履修を通し、教育システムを活用して、自ら学ぶ姿勢、自分の適した学習方法を確認できる。 2. 様々なスポーツを実施し、楽しみながら健康管理能力を養うことで、生涯スポーツの重要性を理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：ガイダンス（初回のみ着替え不要＊欠席者は教員へ個別連絡が必要） 第 2 回：硬式テニス① テニス導入のための小テスト（ルール等）、基礎練習など 第 3 回：硬式テニス② ラケットティング、打法の練習、レベル別のミニゲーム 第 4 回：硬式テニス③ ダブルスのルール説明、レベル別のミニゲーム 第 5 回：硬式テニス④ テニスの実技テスト・レポート課題 第 6 回：卓球① 卓球導入のための小テスト（ルール等）、基礎練習、簡易ゲーム 第 7 回：卓球② ラケットティング、打法の練習、アップダウン形式のシングルスゲーム 第 8 回：卓球③ ダブルスのルール説明、アップダウン形式のダブルスゲーム 第 9 回：卓球④ ダブルスのルール説明、ダブルスゲーム、ラージボール活用 第 10 回：卓球⑤ 卓球の実技テスト・レポート課題 第 11 回：バドミントン① バドミントン導入のための小テスト（ルール等）、基礎練習、ゲーム 第 12 回：バドミントン② 打法の練習、アップダウン形式のシングルスゲーム 第 13 回：バドミントン③ トリプルのルール説明、アップダウン形式のゲーム 第 14 回：バドミントン④ ダブルスのルール説明、アップダウン形式のゲーム 第 15 回：バドミントン⑤ バドミントンの実技テスト・レポート課題 ・学内の健康診断は必ず受診し、運動に影響する所見がある場合は、必ず担当教員まで相談する。また既往歴（これまで有したことのある病気や障害・傷害など）がある場合も同様。 ・第 1 回に健康確認や授業の重要事項を説明（欠席者は第 2 回までに教員への個別連絡が必要） ・履修者は 40 名までとする（履修者の人数に応じて授業内容の一部を変更する場合がある）。 ・硬式テニスでは屋外シューズ、バドミントン・卓球では体育館シューズを必ず用意すること。 ・スポーツウェアを着用し、アクセサリ・時計の着用は禁止。 ・受講者全員が楽しく効果が上がるよう、集団の一員としての自覚をもって行動すること。

アクティブラーニング	グループワーク、PBL、学修ポートフォリオ
授業内のICT活用	なし
評価方法	基本技術の習得状況・達成度（小テスト・実技テスト）30%、レポート課題30%、授業態度20%、用具の取り扱いと準備・片付け10%、服装10%（計100%） 小テストなどの再試験は実施しない。レポートの提出期限は厳守。
課題に対するフィードバック	小テストの解説、レポート・リアクションペーパーへのコメント
指定図書	なし
参考図書	健康・フィットネスと生涯スポーツ（東海大学一般体育研究室）
事前・事後学修	・履修前に各種目のルール・マナーを学修し、必要となる技術や自分にとって理想的な戦術を考える（約40分）。授業後は問題点を確認し、次回のレベル向上につなげる（約40分）。 ・2, 6, 11回目の授業開始直後に小テストを実施（計120分=3回分を要する）。 ・4, 5, 7, 10, 13, 15回目の授業後にポートフォリオ課題を実施。 ・5, 10, 15回目の授業後にレポート課題を実施する（計120分=3回分を要する）。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	看護学部、1206研究室、火曜・金曜 12:30～17:00
実務経験に関する記述	本科目は「中学校教諭一種免許（保健体育）、高等学校教諭一種免許（保健体育）、NSCA認定CSCS、健康運動指導士、赤十字救急法救急員」の資格を有する講師が実務の観点から踏まえて教授する科目です。

科目名	スポーツⅡ
科目責任者	栗原 都
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 春
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	現代社会では運動機能が低下し、生活習慣病などが増大しているほか、人とのコミュニケーションが希薄で、孤独になりやすい環境にあります。運動は、体力を高め、病気になりにくい身体をつくるだけでなく、人間関係を育み、楽しい生活を営むための要素をたくさん含んでいます。これを認識する為の知識や方法を、エクササイズを通して学習します。
到達目標	1. 様々なスポーツを体験し、それぞれのスポーツの効果と技術、楽しみ方を学ぶ。 2. スポーツを通して個人の差異を認め、団体の中で他者と協調し運動の効果を上げる工夫をする。 3. 上記を修得する中で、仲間意識を深め、人とのふれ合いの重要性を学ぶ。 4. 心身の健康を育み維持する上での運動の重要性を学ぶ。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：①オリエンテーション…授業で行うスポーツの内容とその目的・目標を確認する ②先ずは気持ち良く体をほぐしましょう 第2回：自身の特性を知る体力チェックと雰囲気づくりのレクリエーション的運動 — チェック項目の結果から自身の強み弱みを知り、体力改善に役立てる。 第3回：親睦を深める楽しいスポーツ①「フリスビー」 — 投げ方を知り様々な楽しみ方を学ぶ。 第4回：親睦を深める楽しいスポーツ②「シレーンバレー・練習」 — バレーンバレーのボールに慣れて、打ち方や受け方を練習する。 第5回：親睦を深める楽しいスポーツ③「シレーンバレー・ゲーム」 — チーム同士が協力・団結して戦うゲーム。 第6回：健康を維持するための基本①「ウォーキングエクササイズ」②「腹式呼吸法」 — 小ボールを持って行うエクササイズで楽しくウォーク。又、酸素摂取の呼吸法で健康維持。 第7回：健康を維持するための基本③「楽体法」 — 体のバランスを調べ、疲労を改善し痛みを軽減し軽い体を作る。 第8回：筋肉に関する運動と知識①「ストレッチ法」 — 筋肉や腱を伸ばすことで全身のコリを解消。又、全身の関節痛(腰痛・膝痛・肩など)を予防・改善できます。 第9回：筋肉に関する運動と知識②「筋力アップ法」 — 筋肉の働きはパワーアップだけでなく健康に関わることを学ぶ。 第10回：全身の体力と仲間意識を高める運動①「バスケットボール・練習」 — ドリブル・パス・シュートの練習と3：3や5：5など。 第11回：全身の体力と仲間意識を高める運動②「バスケットボール・ゲーム」 — 1ゲーム5分のゲームを行う。 第12回：敏捷性を高める運動「バドミントン」 — 打ち合いができるまでの練習と、ダブルスゲームを行う。 第13回：敏捷性、調整力などを養いながら楽しめる生涯スポーツ「卓球」 — 1,000万人に愛される理由を体験を通して考える。 第14回：巧緻性・リズム感を養う運動①「ジャズダンス・振り付けを覚える」 — 曲を決めて振り付けるので時間内で習得し、時間外でも練習する。 第15回：巧緻性・リズム感を養う運動②「作品を踊る」— 4～5人で踊る。 ※授業では体育館シューズ・スポーツウェアを着用。アクセサリ・時計などの着用禁止。 ※全体に緊張感を持って効果を上げる授業が行えるように、自覚を持って行動してください。 他者の士気を下げたり迷惑をかけるような行動には注意しましょう。

アクティブ ラーニング	実技科目です。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業への積極的取り組み態度 50% 協調性（他者への関わりと配慮）・リーダーシップ(統率力) 20% 実技点 30%
課題に対す るフィード バック	クラブ活動やサークル等の経験、未経験による技術の差は評価の対象としません。 いかに真摯に取り組んで、自他に効果や影響をもたらしたかを重要とします。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	授業計画に書かれた各スポーツに関する様々な情報に興味と親しみをもって学修しておくこと。使用する施設や用具の取り扱いや管理を学ぶことや、各種スポーツの持つ特性を体感したことで、授業体験後、興味や楽しさ・必要性を感じたスポーツに継続的・積極的に関わるように努める。目安時間 40 分。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「保健体育科教諭（中学・高校）」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	法学
科目責任者	稲葉 彬
単位数他	2 単位（30 時間） 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	みなさんは、法というと、何だか堅苦しくて難しい感じがして、何となく関わりたくないと思うかもしれませんが、法の知識は、みなさんが卒業後に仲間入りする「大人の社会」の常識です。 この授業では、身近な例をとり上げながら、できるだけやさしくお話しますから、しっかり学んで、リーガル・マインド（<i>Legal Mind</i>）を身につけ、危機管理のできる大人になりましょう。 前半の授業では、法とは何か、他の社会規範（つまり、道徳や慣習、宗教等）とはどう異なるのか、裁判の仕組みはどうなっているのか、裁判の基準となる法とは何か、等々を、さらに、後半の授業では、みなさんに関係の深い、社会福祉と法、とりわけ相談援助活動と法、成年後見制度、日常生活自立支援事業、成年後見利用支援事業、権利擁護に係る組織・団体の役割と実際、権利擁護活動の実際、等について掘り下げて考えます。
到達目標	1. 法学の基礎知識を習得する。 2. 法的思考に馴染む。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：法学を学ぶに当って 第 2 回：法とは何か？ 第 3 回：社会規範と法 第 4 回：裁判の仕組み 第 5 回：裁判の基準：制定法、慣習法、判例法、等 第 6 回：法の体系（1）近代法、公法と私法 第 7 回：法の体系（2）現代法、公法と私法と社会法 第 8 回：犯罪と法 第 9 回：財産と法 第 10 回：家族と法 第 11 回：社会福祉と法 第 12 回：相談援助活動と法 第 13 回：成年後見制度 第 14 回：日常生活自立支援事業と成年後見制度支援事業 第 15 回：権利擁護に係る組織・団体の役割と実際、権利擁護活動の実際

アクティブラーニング	講義科目ですから、特に行いませんが、学期末に国家試験の法学についての過去問をいくつかみんなで解いてみたいと思います。
授業内のICT活用	なし
評価方法	定期試験 70%、課題レポート 10%、小テスト等 20%で、総合的に評価します。
課題に対するフィードバック	・授業についての質問・要望については、毎回リアクション・ペーパーに書いてもらい、次回の授業の冒頭で回答します。 ・毎回の小テストについては、解答例を挙げ、コメントします。
指定図書	・『現代法学入門』伊藤正巳・加藤一郎編 有斐閣双書 ・『ポケット六法』（令和2年度版）佐伯仁志他編 有斐閣
参考図書	・授業中に適宜紹介します。
事前・事後学修	・法学の基礎知識の定着を図るために、毎回の授業の始めに、前回の授業で学んだ内容のポイントについての小テストを行う予定ですので、復習に重点を置いて学修するようにしてください。目安時間 40 分。 ・この授業を受講するみなさんは、毎日、新聞に目を通すようにしてください。受講生のみなさんは、以下の二点を厳守してください。 ・毎回の授業には、必ず『六法』をもってくること。 ・授業後、その日のうちに復習すること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	なし

科目名	日本国憲法
科目責任者	稲葉 彬
単位数他	2 単位（30 時間） 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	憲法は、国の基本法であり、国の最高法規だといわれていますが、わたしたちの日常生活にどのような関わりをもち、わたしたちの生活をどのように支えているのかを、受講生のみなさんとともに掘り下げて考え、豊かで健全な人権感覚・人権意識を身につけることを目的とします。 この授業では、まず憲法とは何か、日本国憲法で保障されている基本的人権にはどのようなものがあるのか、基本的人権を保障する統治の仕組みはどのようなになっているのか、等々を、身近な事例をとり上げながら、できるだけやさしくお話するつもりです。
到達目標	1. 基本的人権にはどのようなものがあり、どのようにして確立されたのかを把握する。 2. 国の統治の仕組みはどのような考えに基づいているのかをしっかりと理解する。 3. 憲法に関する通説と最高裁判所の判例の動きもフォローする。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：憲法を学ぶに当たって 第 2 回：憲法とは何か？ 第 3 回：近代国家と憲法 第 4 回：明治憲法と日本国憲法 第 5 回：基本的人権とは何か？ それはどのように保障されているのか？ 第 6 回：19 世紀的基本権（1）自由権〔経済活動・精神活動・身体的自由〕 第 7 回：19 世紀的基本権（2）平等権、受益権 第 8 回：20 世紀的基本権（1）社会権〔生存権、教育を受ける権利、労働の権利〕 第 9 回：20 世紀的基本権（2）参政権 第 10 回：権力の分立、立法権と国会 第 11 回：行政権と内閣 第 12 回：司法権と裁判所 第 13 回：違憲立法審査権 第 14 回：地方自治の保障 第 15 回：平和主義と国際協調

アクティブラーニング	講義科目のため、特にありませんが、学期末に国家試験の憲法についての過去問をいくつかみんなで解いてみたいと思います。
授業内のICT活用	なし
評価方法	定期試験 70%、課題レポート 10%、小テスト 20%で、総合的に評価します。
課題に対するフィードバック	・授業についての質問・要望については、毎回リアクション・ペーパーに書いてもらい、次回の授業の冒頭で回答します。 ・毎回の小テストについては、解答例を上げ、コメントします。 ・課題レポートについては、よく書けているレポートを選定し、「課題レポート選」という形で受講生に配布します。
指定図書	『憲法読本』〔第4版〕杉原泰雄 岩波ジュニア新書 『ポケット六法』〔令和2年度版〕佐伯仁志他編 有斐閣
参考図書	授業時に適宜紹介します。
事前・事後学修	・憲法の基礎知識の定着を図るために、毎回の授業の始めに前回の授業内容のポイントについて的小テストを行いますので、復習に重点をおいて学修するようにしてください。目安時間 40分。 ・この授業を受講するみなさんには、毎日、新聞に目を通すことを要望します。受講生のみなさんは、以下の二点を厳守してください。 ・毎回の授業には、必ず『六法』をもってくること。 ・授業後、その日のうちに復習すること。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	なし

科目名	経済学
科目責任者	白 春騮
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身に付けている。
科目概要	家庭の生活や企業の生産活動は、どのような考えに基づいて、どのような制度の下で行われているのでしょうか。また、政府が実施する政策は、本当に望ましいものなのでしょうか。 この講義では、経済学の基本的な考え方を学ぶことで、日々目にする経済活動や政策に対して自分なりの検討ができるようになることを目指します。
到達目標	1. 経済学の目的と基本的な考え方を理解する。 2. 経済学の多様性を理解するとともに、経済学の限界も理解する。 3. 身の回りの事象を経済学の観点から考察できるようにする。
授業計画	〈授業内容・テーマ等〉 第 1 回 ガイダンス：経済学の基本的な仕組みについて 第 2 回 経済史と経済学の流れ 第 3 回 経済学のフィールド 第 4 回 消費者(家計)の消費行動 第 5 回 家計の選択と需要曲線 第 6 回 生産者(企業)の生産行動 第 7 回 生産者の選択と供給曲線 第 8 回 価格決定メカニズム、市場の失敗 第 9 回 GDP と経済成長率 第 10 回 ケインズ経済学と新古典派経済学の違い 第 11 回 マクロ経済学の基本分析(国民所得決定理論) 第 12 回 日本の財政制度と財政政策 第 13 回 日本の金融システムと金融政策 第 14 回 国際貿易と為替レート 第 15 回 データから見る日本経済

アクティブ ラーニング	何回かの講義で、理解を深めるためグループ学習等を取り入れる予定です。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	定期試験（筆記試験）80%、講義中の取り組み（受講姿勢及びリアクションペーパー等）20%、で評価します。
課題に対す るフィード バック	定期的にコメントを求める場合がありますが、その場合は次の講義時に講義内で紹介、解説します。
指定図書	特になし。参考書等は、適宜、講義中に指示します。
参考図書	なし
事前・ 事後学修	講義後、講義で示した考え方を使って、経済関連の新聞やニュースを週に一回 40 分程度経済学的に検討してみてください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	教育学
科目責任者	内崎 哲郎
単位数他	2単位 30時間 選択 春・秋
DP番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身に付けている。
科目概要	現代の教育について、哲学、歴史、国際比較、制度、実践、教育問題などの視点から多角的に考察し、理解を深める。 教育の歴史、教育に関わる様々な思想、具体的な教育実践等を通じて、「教育とは何か」「学びとは何か」を考察する。 19世紀以降の公教育制度の構築と展開に焦点を当てて、近代社会における「教育」「学校」の意味を考察する。
到達目標	1. 教育とはどういうものか理解を深め、説明できる。 2. 教育の歴史と教育が果たす役割を説明できる。 3. 教えるということ、教師の役割について理解を深め、自分の考えを説明できる。 4. 教育病理について理解を深め、原因と問題解決の方法を説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回 本授業の全体的なガイダンス 教育とは何か？ 第2回 教育とは何か？哲学者・教育学者が論じる教育とは？ 第3回 教育の歴史 ①古代史における教育：プラトンのアカデメイア 第4回 教育の歴史 ②中世史における教育：宗教と学校 第5回 教育の歴史 ③近世史における教育：宗教改革以降の教育思想 第6回 教育の歴史 ④近世史における教育：教育思想の発展 子どもの発見 第7回 教育の歴史 ⑤ 産業革命と近代学校の誕生 第8回 教育の歴史 ⑥欧米諸国における公教育制度の成立 第9回 教育の歴史 ⑦現代における公教育の発展：中等教育の制度化 第10回 教育の歴史 ⑧日本の公教育の成立と発展 第11回 教育と教師：理想の教師とは 第12回 教育と教師：教師の仕事を考える 第13回 教育と教師：教師の専門性とは 第14回 教育病理：いじめ・不登校・学級崩壊 第15回 教育病理：学校教育における教育病理への対応：チーム学校への対応

アクティブ ラーニング	グループワーク、ディスカッション、ミニッツ・ペーパー、プレゼンテーション
授 業 内 の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションを、プロジェクターを利用して行います。
評価方法	小テスト・授業内の提出課題 40%・授業態度 20%、最終テスト 40%で総合評価する。 演習・レポートを評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対す るフィード バック	テストの解答例の提示、レポートとリアクションペーパーへのコメント、返却
指定図書	各回プリントを配布します。
参考図書	授業中に随時連絡。
事前・ 事後学修	・授業後に毎回配布されるプリントを最低 3 回は熟読して次回に臨むこと。(2～15 回) ・各回の小テストの修正をしっかりとすること(2～15 回目) ・事後学修の目安 1 回につき 40 分
オープンエ デュケーシ ョンの活用	文部科学省HP https://www.mext.go.jp/a_menu/a002.htm 浜松市教育委員会 HP https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/kyoiku/kyoiku/inkai/index.html
オフィス アワー	初回授業の際に提示します。
実務経験に 関する記述	なし。

科目名	社会学
科目責任者	馬場 孝
単位数他	2単位（30時間） 選択 秋
DP番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	社会学は、世の中に流通している「常識」をたんに寄せ集めたものではありません。むしろ、そうした現代社会における「常識」がいかに社会的に形成されてきたものであるかを暴露するという意味で、社会学は「脱常識」こそを特長とするとさえ言えます。生、死、健康、病、老い、障害、子育て等々の諸事象ももちろん社会と不可分であり、本講ではそのつながりを橋渡しする方法として社会学の考え方や研究例を取り上げていきます。
到達目標	1. さまざまな常識を社会的な構成物として捉え返すことができる 2. 社会学の基礎的諸概念を用いて諸現象を分析できる 3. 現代社会が保健医療福祉についていかなる課題を抱えているかを理解している
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：社会学とは何か ・社会学とはどのような学であるか、社会学の歴史とともに理解する 第2回：社会学の考え方（1） ・社会学の基本概念である「行為」とその関連概念を学ぶ 第3回：社会学の考え方（2） ・社会集団の概念とその適用・類型を理解する 第4回：社会システム論の視点 ・パーソンズの社会システム論とその後の展開をとらえる 第5回：機能分析という考え方 ・マートンによる機能という考え方を紹介し、分析事例を考察する 第6回：地域社会の展開 ・地域社会学の基礎を学び、地域の問題を日常レベルと地球レベルから学ぶ 第7回：役割と演技 ・社会生活を役割と演技という観点から捉え返す。 第8回：社会問題の捉え方 ・社会問題の捉え方と社会的ジレンマについて理解する。 第9回：社会的偏見の構造 ・民族的、社会的偏見の発生と拡散のメカニズムをとらえる 第10回：生活の理解 ・私たち人間の生および生活が、いかに変化し、現在いかなる地点にあるかを理解する。 第11回：家族の捉え方、家族の現在 ・家族をめぐる概念と捉え方を理解し、現代における家族の変容や実態を考察する。 第12回：現代社会とジェンダー ・性別を社会的次元から捉え返し、現代社会における性別にかかる諸問題を理解する。 第13回：現代社会と社会階層・移動 ・社会階層と社会移動など、現代社会が抱える社会経済的な実態について考察する。 第14回：現代社会と社会変動 ・私たちが生きる現代社会がいかなる社会変動に直面しているかを考察する。 第15回：日常生活と社会学 ・保健医療福祉を踏まえた「日常生活」とは何かを理解する。

アクティブラーニング	講義形式をベースとするが、一部に双方向型の授業方式を導入する
授業内のICT活用	行わない
評価方法	定期試験 80% 社会学的な考え方や基礎概念の理解を評価する。授業への取り組み 20%
課題に対するフィードバック	課題や小テストについてはすべて授業中に解答、解説する
指定図書	特に指定しない（適宜プリントを配布する）。
参考図書	講義中に指示する
事前・事後学修	配布資料の事前、事後の精読を中心に、1回の授業で40分の課題を目安とする
オープンエデュケーションの活用	edX, Coursera, JMOOC等のリソースから「無料」「日本語」あるいは字幕が完備し、授業内容を補完するプログラムがあれば適宜紹介する
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	なし

科目名	現代コミュニティ論
科目責任者	下澤 嶽
単位数他	2単位（30時間） 選択 春・秋
DP番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	本講では、人間社会の中にコミュニティがどう位置づけられ、役割をもってきたか、またそれらが歴史の中でどう変わってきたかを検証していきます。そして、現代の日本社会において、コミュニティ政策が実際にどのように展開されているか、教育、福祉、まちづくり、文化などの側面から検証していきます。
到達目標	1. コミニティの概念とその変化を人間社会の歴史にそって理解できる。 2. 日本社会のコミュニティ政策がどのように成立し、変化してきたかを理解できる。 3. コミュニティ政策を教育、福祉、まちづくり、文化などの側面から詳細に見ていきます。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：コミュニティの言葉の誕生と変遷 ・コミュニティ概念がなぜ発生し、現代社会に影響を与えるようになったかを理解する。 第2回：原始社会とコミュニティ ・狩猟採集を中心とする社会でコミュニティはどのように展開されていたかを理解する 第3回：農業社会とコミュニティ ・農業を中心とする社会におけるコミュニティの特徴を理解する。 第4回：国家の誕生とコミュニティの変化 ・国民国家の誕生により、コミュニティはどう変化してきたかを理解する。 第5回：現代社会とコミュニティ ・工業を中心とする現代において、コミュニティがどう変化してきたのかを理解する。 第6回：日本のコミュニティ政策の変遷 ・日本の政策上、コミュニティの概念がどう採用され、変化してきたかを理解する 第7回：コミュニティと社会的排除 ・コミュニティが社会的排除をもたらす事例と排除される人びとについて考察する 第8回：コミュニティと社会的包摂 ・コミュニティと社会的包摂の発展を理解する。 第9回：コミュニティと教育政策 ・教育制度とコミュニティとの関係と歴史を理解する。 第10回：コミュニティと福祉政策 ・福祉制度とコミュニティとの関係と歴史を理解する。 第11回：コミュニティとまちづくり ・まちづくり政策とコミュニティの関係と歴史を理解する。 第12回：コミュニティと文化 ・文化政策とコミュニティの関係と歴史を理解する。 第13回：コミュニティと自治会 ・コミュニティの中の自治会の位置づけとその歴史を理解する。 第14回：コミュニティとNPO ・NPO団体とコミュニティの関係と歴史を理解する。 第15回：まとめ ・コミュニティをめぐるこれまでの内容をふまえて、専門職者としてのあり方を考える。

アクティブラーニング	原則として講義形式で実施するが、グループディスカッション、ワークショップなども随時行う。
授業内のICT活用	なし
評価方法	定期試験（小テストも含む）70%、提出物 15%、リアクションペーパー15%として評価をする。
課題に対するフィードバック	質問などは授業で受け付けると同時にリアクションペーパーに書かれたものに、次の授業でも応えていく。
指定図書	特に指定しない（適宜プリントを配布する）。
参考図書	なし
事前・事後学修	随時、授業中に指示をする。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「社会福祉法人 世田谷ボランティア協会職員、NPO 法人シャプラニール＝市民による海外協力の会事務局長、NPO 法人国際協力 NGO センター事務局長、平和構築 NGO ジュマ・ネット共同代表等」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	生物学
科目責任者	熊澤 武志
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	私達の生命活動は、巧妙なメカニズムでコントロールされています。この生命活動の基礎について学ぶのが生物学です。この授業ではヒトに関連する生物学を中心に、生命に関する知識と関心を深めることを目的とします。
到達目標	1. 細胞のはたらきについて説明できる。 2. 遺伝子のはたらきとしくみについて説明できる。 3. 生命活動を調節するしくみについて説明できる。 4. 免疫のしくみについて説明できる。 5. 感覚のしくみについて説明できる。 6. 生命活動とエネルギーについて説明できる。 7. 生殖・発生のしくみについて説明できる。 8. 生物学に関連する先端技術について関心を高めることができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：生命とは何か 第 2 回：細胞－生命の基本単位 第 3 回：遺伝子－生命の設計図 第 4 回：体内環境と恒常性 第 5 回：生命活動を支えるしくみ 第 6 回：生命活動を調節するしくみ～脳・神経（1） 第 7 回：生命活動を調節するしくみ～脳・神経（2） 第 8 回：生命活動を調節するしくみ～ホルモン 第 9 回：中間のまとめとテスト 第10 回：生命を守るしくみ 第11 回：感覚のしくみ 第12 回：遺伝のしくみ 第13 回：生殖のしくみ 第14 回：発生のしくみ 第15 回：生物学の先端テクノロジー・まとめ 本科目は高校で生物基礎を履修しなかった学生、生物の勉強が苦手だった学生を履修対象とします。

アクティブ ラーニング	授業では小テストやリアクションペーパーの作成などに取り組んでもらいます。
授 業 内 の ICT 活用	なし
評価方法	中間テスト（40％）、定期試験（40％）、平常点（20％）を総合的に評価します。平常点には小テスト、リアクションペーパー、レポート、授業への取り組みなどが含まれます。
課題に対す るフィード バック	小テストは採点後に返却し、必要に応じて解説します。また、リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。
指定図書	なし
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	授業で使う資料を授業中あるいは事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用して下さい。また、2～8 回目の授業で前回の授業範囲の中から簡単な小テストを実施しますので、理解度の評価に役立ててください。なお、この授業では、事前学修 40 分程度、事後学修 40 分程度を費やします。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	熊澤武志（看護学部 1716 研究室: takeshi-ku@seirei.ac.jp） 講義終了～18:00 まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	日本語表現法
科目責任者	渡辺 泰宏
単位数他	2単位（30時間） 選択 春・秋
DP番号と科目領域	DP3 教養基礎
科目の位置付	様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	日本語は、世界で最も難しい言語の一つである。それだけに、とても面白い言語だということも理解してほしい。ただし、やはり難しい言語であるので、しっかりした文法や決まりも理解しなければならない。それを理解した上で、説明文、レポート、小論文などの書き方を学び、学業において困ることがないようにすることを目的としたい。
到達目標	1. 日本語の特殊性について理解する 2. 日本語の基礎的な表現を理解する 3. 敬語や手紙の文章を学び、使いこなせるようにする 4. レポート・論文の書き方について学び、活用できるようにする
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：日本語表現法概説1<日本語とはどんな言語か、何を学ぶのか> 第2回：日本語表現法概説2<日本語とはどんな言葉か2> 第3回：日本語の特徴<標準語と方言、書き言葉と話し言葉等> 第4回：日本語の言いまわし<日本語独特の表現・適切な表現> 第5回：主語と述語1<助詞「は」と「が」> 第6回：主語と述語2<助詞「が」と「を」、「も」・助動詞> 第7回：文章（文と文のつながり）1<文の接続と句読点> 第8回：文章（文と文のつながり）2<文の構造と悪文> 第9回：敬語1<敬語とは> 第10回：敬語2<敬語用法の実際> 第11回：手紙を書く<手紙の書き方と敬語> 第12回：文章要約<文章を要約する> 第13回：説明文<説明文を書く> 第14回：小論文<レポート・小論文を書く> 第15回：説明文・小論文<説明文・小論文の解説>

アクティブラーニング	○PBL（課題解決型学習） 毎回、授業の最後に課題を行い、提出してもらう。
授業内のICT活用	なし
評価方法	毎回の提出物 20%、筆記試験 80%、計 100%。 なお、再試験は行わない。
課題に対するフィードバック	毎回の課題に対するフィードバックは、次の授業の最初に行う。
指定図書	テキストとして、毎回プリントを配布する。
参考図書	国語辞典（これまで使ってきたもの）または電子辞書があると便利かもしれない（必須ではない）。
事前・事後学修	課題に対するフィードバックを参考に、必ず復習をすること。目安時間 40 分。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	なし

科目名	情報処理 A
科目責任者	津森 伸一
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP3 教養基礎
科目の位置付	様々な価値観や立場，意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている．
科目概要	現在では，業種や職種を問わず，あらゆる場面でパソコンの利活用に関するスキルが要求される．また，スマートフォンの普及により児童から高齢者までの幅広い層が情報機器を利用するようになり，ネット上のマナーや危機対策についても一定の知識やスキルの修得が求められる．本科目では，パソコンの基本的な操作と簡単な文書作成 (Word, PowerPoint)，併せて情報端末やインターネットを正しく安全に利用するためのマナーや利用方法を修得する． ※情報処理 B との同時履修は不可
到達目標	1. OS (Windows) の基本操作ができる． 2. 電子メールや WWW などのインターネットサービスを利用することができる． 3. 日本語ワープロソフトによる基本的な文書作成ができる． 4. プレゼンテーションソフトを用いたスライド作成とプレゼンテーションができる． 5. ネットの危険性やマナーに関する知識を持ち正しく安全に利用することができる．
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>津森 伸一， 隆 朋也 第 1 回 ガイダンス，パソコンの基本操作，タッチタイピング 第 2 回 フォルダとファイルの管理と操作 第 3 回 Gmail(電子メール)・Google ドライブの基本操作 第 4 回 Web ブラウザの操作方法と Web ページの閲覧 第 5 回 Word, IME の基本操作 / SNS 利用上の注意点 第 6 回 文書の入力と印刷 / SNS 利用上の注意点 第 7 回 書式設定，文字修飾 / ネットの危険性 第 8 回 表の活用 / ネットの危険性 第 9 回 PowerPoint の基本操作，スライドの作成 / 情報の管理 第 10 回 画像の挿入と編集 / 情報の管理 第 11 回 図形機能 / 著作と利用 第 12 回 画面切り替え効果とアニメーションの基礎 第 13 回 アニメーションの応用 第 14 回 ビデオ／オーディオの取り込み，ビデオの作成 第 15 回 プレゼンテーションスライド作成演習

アクティブ ラーニング	学習管理システム(WebClass)を用いた教材提示や課題の授受を行う。
授業内の ICT 活用	パソコンを用いた演習を行うので、毎時間パソコンを持参すること。
評価方法	課題の提出をもって 100%評価する。なお、再試験は実施しない。
課題に対す るフィード バック	口頭や学習管理システム(WebClass)の機能を用いて行う。
指定図書	実教出版編集部 編『30 時間でマスター Office2016』, 実教出版
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学修として, 次回の学修内容に関する教科書の該当ページに目を通しておくこと。 事後学修として, 授業中に実施しなかった教科書の演習問題を解いてみること。目安 時間 40 分。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3517 研究室 時間：毎週木曜日 9 時～12 時 上記以外でもメール (shinichi-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってくだ さい。
実務経験に 関する記述	本科目は「ソフトウェア開発」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授 する科目です。

科目名	情報処理 B
科目責任者	隆 朋也
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP3 教養基礎
科目の位置付	様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	現在では、業種や職種を問わず、あらゆる場面でパソコンの利活用に関するスキルが要求される。また、スマートフォンの普及により児童から高齢者までの幅広い層が情報機器を利用するようになり、それらの機器やそこで扱う情報の安全管理についても一定の知識やスキルの修得が求められる。本科目では、パソコンを用いたデータ処理 (Excel) のための基本的技能、併せて情報を安全に管理・活用するための利用方法を修得する。 ※情報処理 A との同時履修は不可
到達目標	1. 表計算ソフトを用いて数値データを適切に集計・処理することができる。 2. 表計算ソフトでグラフを作成し、データを判りやすい形式で表現することができる。 3. ファイルなどの情報を安全に管理し、紛失や漏洩などの危険性に備えることができる。 4. 情報機器の危険性に関する知識を持ち、正しく安全に利用することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 隆 朋也、津森 伸一 第 1 回：ガイダンス、Excel の基本操作、データの入力 第 2 回：基本的なワークシート編集 / Office ファイルのパスワード保護 第 3 回：関数の利用 第 4 回：相対参照・絶対参照 第 5 回：基本的なグラフの作成 / ファイルやフォルダの暗号化 第 6 回：やや高度なグラフの作成 第 7 回：IF 関数による条件判定 第 8 回：複号条件による判定 / スマートフォンのセキュリティ対策 第 9 回：関数を利用した検索と順位づけ 第 10 回：関数を利用した統計計算 第 11 回：データの検索と置換、条件付き書式の活用 第 12 回：データの並び替えとフィルター / パソコンのセキュリティ対策 第 13 回：表やグラフの Word 文書への貼り付け 第 14 回：Google フォームの活用と Excel へのエクスポート 第 15 回：総まとめ

アクティブ ラーニング	学習管理システム(WebClass)を用いた教材提示や課題の授受を行う。
授業内の ICT 活用	パソコンを用いた演習を行うので、毎時間パソコンを持参すること。
評価方法	課題の提出をもって 100%評価する。なお、再試験は実施しない。
課題に対す るフィード バック	口頭や学習管理システム(WebClass)の機能を用いて行う。
指定図書	『30 時間でマスター Office2016』実教出版編集部編、実教出版
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学修として、次回の学修内容に関する教科書の該当ページに目を通しておくこと。 事後学修として、授業中に実施しなかった教科書の演習問題を解いてみること。目安 時間 40 分。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	科目責任者（看護学部：隆）の研究室は 1605 です。 基本的に木曜日 15 時～17 時としますが、その他の曜日、時間でも可能な限り対応し ます。 事前にメール（tomoya-t@seirei.ac.jp）で連絡をしてください。
実務経験に 関する記述	本科目は「ソフトウェア開発」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授 する科目です。

科目名	英語 I
科目責任者	パターソン・ドナルド (Donald Patterson)
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	本科目では、大学レベルでの英語学修への導入として効果的な英語コミュニケーションを学ぶ。自信を持って口頭での意思伝達を図ることのできる学習者の養成が目的である。スピーキングとリスニングのスキルを重視した 4 技能（聞く、話す、読む、書く）を総合的に育成する。人との出会い、旅行、文化等のテーマで日常的に使用される英語を聞き、テキスト、音声モデルに基づいて会話練習を行う。
到達目標	本科目の終了時には、学生は以下の能力を獲得していることを目標とする： Upon successful completion of the course, students are expected to be able to do the following things in English: ● Fill in forms with personal information such as name, age, date of birth, and nationality. ● Write short, simple notes or messages about familiar topics. ● Catch the main point in short, clear, simple spoken messages and announcements. ● Understand simple spoken instructions and follow short, simple directions. ● Make introductions and use basic greetings. ● Participate in short conversations in routine contexts on topics of interest. ● Give a 1-2 minute speech or presentation on a prepared topic.
授業計画	<担当教員名> パターソン・ドナルド、高瀬奈美、土江綾、ディニコラ <授業内容・テーマ等> 以下は C クラスの例である。テキストは、クラス分け決定後に購入すること。 第 1 回：プレイスメントテスト 第 2 回：Introduction to the course, Self-introductions (履修説明、自己紹介する) 第 3 回：People (Unit 1) 第 4 回：People (Unit 1) 第 5 回：Behavior (Unit 2) 第 6 回：Behavior (Unit 2) 第 7 回：Behavior (Unit 2) 第 8 回：Review & Mid-Term Test (まとめ、中間テスト) 第 9 回：Shopping (Unit 3) 第 10 回：Shopping (Unit 3) 第 11 回：Shopping (Unit 3) 第 12 回：Vacation (Unit 4) 第 13 回：Vacation (Unit 4) 第 14 回：Group Presentation グループ発表 第 15 回：Review & Final Test (まとめ、最終テスト)

アクティブラーニング	Group learning, Role-plays, Online activities・グループ学修、ロールプレイング、オンライン学習
授業内のICT活用	ICT 機能を利用して授業内での理解度確認を行うアクティブラーニング型授業を実施します。 ICT 機能を利用して授業内でリスニングの練習を実施します。 グループ発表のプレゼンテーションのためにプロジェクターを利用して行います。
評価方法	Class Score (Assignments, Participation): 10%; Short Tests: 20%; Presentations: 20%; Mid-Term Tests: 20%; Final Test: 20% プレイスメントテスト 10%、クラスでの平常点（事前学習、授業態度）10%、小テスト 20%、発表 20%、中間テスト 20%、最終テスト 20%
課題に対するフィードバック	Explanation of tests, and comments on presentations and reports will be provided. 小テスト・中間テストの解説、レポート・プレゼンテーションのコメント
指定図書	A～C クラス = 『World Link: 1』 (National Geographic) D～E クラス = 『World Link: Intro』 (National Geographic)
参考図書	なし
事前・事後学修	MyELT study, Paper reports. About 30 minutes to one hour per week. My ELT（オンライン学習）、レポート。学修時間の目安：事前学修 30 分～1 時間、事後学修 30 分～1 時間程度。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	なし

科目名	英語 II
科目責任者	パターソン・ドナルド (Donald Patterson)
単位数他	1 単位 30 時間 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	本科目の目的は、学生のコミュニケーション能力をさらに向上させ、より自律的な学習者を育成することである。英語 I の学修内容を踏まえ、読解力、文章力、語彙力を重視した 4 技能（聞く、話す、読む、書く）を総合的に育成する。読解速度の向上を目指し、集中的に大量の文章を読みこなす力を身につける。短いメッセージ、電子メール、申請書類、および短い段落に必要なライティングスキルを練習する。また、中級から上級のクラスでは TOEIC の試験対策も行う。
到達目標	1. 初級クラスでは、基本的な英語の語彙と文章構造を理解し、日常的な内容について話された／書かれた文章を英語のまま理解し、簡単な質問に答えることができる。内容に沿った質問をすることができる。ロールプレイをスムーズに行うことができる。 2. 中級以上のクラスでは TOEIC の教材を活用し、より実用的で幅広い英語運用能力の修得を目指す。様々な意見、立場、価値観の違いを考慮した上で、適切な質問を投げかけ、自分の意見を簡潔に伝えることができる。TOEIC500 点以上の取得を目指す。 3. 個々の学習者に合わせた多読活動を実施し、レベルごとに設定する語数の達成を目指す。 4. 友人に対して、分かりやすい内容で E メールや SNS 等で挨拶文が書ける。 5. 推薦状、および自己紹介文が書ける。 6. 専門分野での英文ライティングに関する基礎知識を養う 7. パラグラフの構成について理解し、実際に書く事ができる 8. 創造的な文章、および日常的な内容の英文でコミュニケーションを取ることができる
授業計画	<担当教員名> パターソン・ドナルド、高瀬奈美、土江綾、ディニコラ <授業内容・テーマ等> 以下は C クラスの例である。テキストは、クラス分け決定後に購入すること。 第 1 回 : Introduction to the course, Self-introductions (履修説明、自己紹介する) 第 2 回 : Heroes (Unit 5) 第 3 回 : Heroes (Unit 5) 第 4 回 : Heroes (Unit 5) 第 5 回 : The Mind (Unit 6) 第 6 回 : The Mind (Unit 6) 第 7 回 : The Mind (Unit 6) 第 8 回 : Review & Mid-Term Test (まとめ、中間テスト) 第 9 回 : City Life (Unit 7) 第 10 回 : City Life (Unit 7) 第 11 回 : City Life (Unit 7) 第 12 回 : All About You (Unit 8) 第 13 回 : All About You (Unit 8) 第 14 回 : Group Presentation (グループ発表) 第 15 回 : Final test & Wrap up (最終テスト、まとめ)

アクティブ ラーニング	Group learning, Role-plays, Online activities・グループ学修、ロールプレイング、オンライン学習
授業内の ICT 活用	ICT 機能を利用して授業内での理解度確認を行うアクティブラーニング型授業を実施します。 ICT 機能を利用して授業内でリスニングの練習を実施します。 グループ発表のプレゼンテーションのためにプロジェクターを利用して行います。
評価方法	Class Score (Assignments, Participation): 10%; Short Tests: 20%; Presentations: 20%; Mid-Term Tests: 20%; Final Test: 30% クラスでの平常点（事前学習、授業態度）10%、小テスト 20%、発表 20%、中間テスト 20%、最終テスト 30% なお、TOEIC IP 受験者には、試験結果によって加算点を与える（ただし、受験希望者が少ない時は TOEIC IP が実施できない場合もある）。
課題に対する フィード バック	Explanation of tests, and comments on presentations and reports will be provided. 小テスト・中間テストの解説、レポート・プレゼンテーションのコメント
指定図書	A～C クラス = 『World Link: 1』 (National Geographic) D～E クラス = 『World Link: Intro』 (National Geographic)
参考図書	なし
事前・ 事後学修	MyELT study, Paper reports. About 30 minutes to one hour per week. My ELT（オンライン学習）、レポート。学修時間の目安：事前学修 30 分～1 時間、事後学修 30 分～1 時間程度。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	英語 IV
科目責任者	パターソン・ドナルド (Donald Patterson)
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	本科目は、保健医療福祉分野における臨床、および地域医療における多職種連携教育を想定した目的別の英語（ESP）をより実践的に学ぶ機会を提供する。英語Ⅰ・ⅡおよびⅢ（ESP）での学修内容を前提とする。多文化社会の保健医療に関する現状と課題を理解し、多様な背景を持つ地域住民、および外国人患者に対するチーム医療に必要な英語コミュニケーションの基礎を学ぶ。事例検討、およびカンファレンスでのロールプレイ、プレゼンテーション等を通して、4 技能をバランスよく修得する。
到達目標	本科目の終了時には、学生は以下の能力を獲得していることを目標とする： Upon successful completion of the course, students are expected to be able to do the following in English: ● Understand Interprofessional Collaboration (IPC) and its current issues in English. ● Understand intercultural communication in health care. ● Read short articles on IPC and intercultural communication. ● Understand and practice IPC communication at clinical settings in English. ● Work on a paper patient or scenario and discuss it with different roles. ● Give a short, rehearsed presentation, including a role-play on a health-care subject. ● Build vocabulary on IPC and intercultural communication.
授業計画	<担当教員名> パターソン・ドナルド、高瀬奈美、土江綾 <授業内容・テーマ等> 第1回： Introduction to the Course and Self-Introductions 第2回： Understanding Intercultural Communication in Health Care 第3回： Core Concepts of Interprofessional Collaboration (IPC) 第4回： Understanding Barriers to IPC and Intercultural Communication 第5回： Roles, Responsibilities and Abilities of Different Professions in IPC 第6回： Understanding Communication, Accountability and Task Distribution. 第7回： Use of Strategies and Tools to Facilitate Effective Communication and Collaboration 第8回： Review and Mid-Term Test (まとめ、中間テスト) 第9回： How to Tackle Challenges: Conflict Management and Negotiation 第10回： How can we work together?: Leadership and Membership 第11回： Group Work Research Project (グループワーク) 第12回： Group Work Research Project (グループワーク) 第13回： Group Work Research Project (グループワーク) 第14回： Group Presentation (グループ発表) 第15回： Final test and Wrap up (期末テスト、まとめ)

アクティブ ラーニング	Group learning, Role-plays, Google Classroom activities グループ学修、ロールプレイ、プレゼンテーション、Google Classroom の活用
授業内の ICT 活用	ICT 機能を利用して授業内での理解度確認を行うアクティブラーニング型授業を実施します。 グループ発表のプレゼンテーションのためにプロジェクターを利用して行います。
評価方法	Class Score (Assignments, Participation): 10%; Short Tests: 10%; Reports: 20%; Presentations: 20%; Mid-Term Tests: 20%; Final Test: 20% クラスでの平常点（事前学習、授業態度）10%、小テスト 10%、課題提出 20%、発表 20%、中間テスト 20%、 期末テスト 20%
課題に対する フィード バック	Explanation of tests, and comments on presentations and reports will be provided. 小テスト・中間テストの解説、レポート・プレゼンテーションのコメント
指定図書	資料配布
参考図書	なし
事前・ 事後学修	Google Classroom segment, Paper reports. About 30 minutes to 1 hour per week. Google Classroom による課題、レポート。学修時間の目安：事前学修 30 分～1 時間、事後学修 30 分～1 時間程度。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	中国語
科目責任者	方 健
単位数他	1 単位（30 時間） 選択 春・秋 ※2 年次生以上のみ履修可能
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	中国語を始めて学ぶ人を対象として、中国語の基本語彙、文法を勉強しながら、実際にも応用できるように日常会話を繰り返し練習する。学生同士で中国語を使って会話する授業も行う。また中国人のものの考え方を紹介して、中国の文化を理解する上に中国語の表現方法を習得する。
到達目標	1. 挨拶言葉を言える。 2. 母音、子音、声調を正確に発音ができる。 3. 学習内容（単語及び文法）を把握する。 4. 中国語で簡単な日常会話ができる（先生からの質問に中国語で答える）。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：単母音、声調（四声）を繰り返し発音して、中国語の発音の特徴を把握する。 第 2 回：複母音（二重母音、三重母音）、鼻母音の発音を練習して覚える。 第 3 回：子音の発音を練習して、無気音と有気音の違いが聞き取れるようにする。 第 4 回：初対面の挨拶、自己紹介ができるようにする。 第 5 回：判断文を使って、物の名前や人の名前を聞いて、簡単な会話を練習する。 第 6 回：動詞文の作り方を把握して、よく使っている動詞の語彙を覚える。 第 7 回：動詞を使う日常会話を作って、その日常会話を言える、また聞き取れるようにする。 第 8 回：百以下の数の数え方と時間詞（年、月、日、曜日、時）を覚える。 第 9 回：時間詞の使い方を把握して、時間の尋ね方を覚える。 第 10 回：存在動詞<有>を使って、家族を紹介します。 第 11 回：存在動詞<在>を使って、人や物の場所を尋ねる。 第 12 回：動詞の進行形を使って、会話文を作る。 第 13 回：前置詞を使って、活動範囲を表現する。 第 14 回：大きい数の数え方とお金の言い方を覚えて、買い物ができるようにする。 第 15 回：まとめ、中国語の旅

アクティブ ラーニング	講義中心の科目です。
授業内の ICT 活用	無し
評価方法	小テスト(計 13 回)の成績を 50%、定期試験の成績を 50%の割合で、成績を評価する。
課題に対す るフィード バック	小テストの回答について、解説をし、また間違った回答を書面で解説してから返す。
指定図書	『すぐに使えるカンタン中国語』 宮本大輔・温琳著 朝日出版社
参考図書	『中国語学習辞典』 相原茂編著 朝日出版社
事前・ 事後学修	CD、教科書とプリントを使って、授業前に 20 分間予習して、新しい単語を覚えておきましょう。授業後に 20 分間CDを繰り返して聞いて、プリントの問題をやり遂げて、会話文を流暢に読めるようにしてください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	無し
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	無し。

科目名	外国語
単位数他	1 単位（30 時間）
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	本学の教育課程にある外国語科目（英語Ⅰ、英語Ⅱ、中国語）以外の外国語科目を、放送大学で履修し習得した場合に、本科目の単位として認定します。
到達目標	－
授業計画	<授業内容・テーマ等> 2020 年度に放送大学で開講する科目でも、この科目で単位認定できるのは定期試験期間が重複しない科目のみです。詳細は、7 月（秋セメスター対象）、1 月（次年度春セメスター対象）に共通科目掲示板に掲載する募集チラシをご確認ください。

アクティブ ラーニング	—
評価方法	—
課題に対す るフィード バック	—
指定図書	—
参考図書	—
事前・ 事後学修	—
オフィス アワー	—
実務経験に 関する記述	—

科目名	海外研修
科目責任者	パターソン・ドナルド (Donald Patterson)
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	海外で諸文化等に触れることで、その国の保健医療福祉事情を知り、異文化や価値観の多様性などの学びを通して、グローバルな視野を養うことを目指します。さらに、保健・医療・福祉の視点で、異なる専門職を目指す学生との交流を通し多職種連携の意義について考えます。
到達目標	1. 国際的な視野で保健医療福祉を考えるきっかけとする。 2. 保健・医療、看護、社会福祉の問題に関するグローバルな視点に立った思考や活動へのきっかけとする。 3. 研修を行う国の生活や文化に直接触れることで、人間・社会・環境への理解を深める。 4. 研修を行う国の人々とのコミュニケーションをとることができる。 5. 英語能力を高めること。
授業計画	<担当教員名> パターソン・ドナルド、高瀬奈美、土江綾、若杉早苗、落合克能、二宮貴之、中村哲也 <授業内容・テーマ等> 本学交流協定締結校であるナンヤン理工学院（シンガポール研修）、第三軍医大学（中国研修）を拠点に行う研修に参加するために事前研修・研修前準備を行い、研修後に課題レポートを提出する。 I. 事前研修 研修を行う国の概要や保健医療福祉の現状、教育制度等について学習する。 研修を行う国の文化・習慣について学習する。 研修先施設の概要について調べる。 英語による自己紹介やコミュニケーションのとり方を練習する。 国際人に求められるマナーや態度を理解する。 II. 研修前準備（研修に必要な書類の作成） 渡航手続き書類を準備する。 研修参加目的や自己紹介等の文書を英語で作成する。 III. 海外研修 1. 研修先 シンガポール研修（受け入れ機関 ナンヤン理工学院） 中国研修（受け入れ機関 第三軍医大学） 2. 期間 シンガポール： 9 日間 中国： 8 日間 IV. 課題レポートの作成 研修の内容をレポートにまとめ、提出する。 海外研修報告会に参加する。

アクティブ ラーニング	グループ学修、ロールプレイング、オンライン学習
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションのためにプロジェクターを利用して行います。
評価方法	事前研修 30%、海外研修時の態度・知識の評価 40%、課題レポート 30%
課題に対す るフィード バック	レポート・プレゼンテーションのコメント
指定図書	資料配付
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学修は、自国の保健・医療・福祉の事情について説明できることや研修先について事前に調べる必要があります。事後学修は、研修内容をこれからの保健・医療・福祉実践に活用できるように整理しておくことです。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	ブラジル文化と言語
科目責任者	高阪 香津美
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	本授業では、浜松市に数多く暮らすブラジル人を中心とした日本に暮らす外国人が抱える課題を把握するとともに、その課題の解決策を考える。また、ブラジル人の母語であるポルトガル語を学習します。そして、ブラジル人住民が日常生活を送る上でコミュニケーションに困難を抱えないよう、基本的なポルトガル語の語彙や表現を身につけることをねらいとします。
到達目標	1. 生活上の様々な場面で外国人住民が抱える言葉の問題について理解すること。 2. 日本でポルトガル語を学習することの意義について意識すること。 3. 言語だけでなく、ブラジルの文化的側面についても把握すること。 4. ポルトガル語の基本的な文法知識を身につけ、簡単な意思疎通ができること。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：授業の進め方・評価に関する説明、ブラジルに渡った日本人移民 第2回：日本に暮らすブラジル人の数と多文化共生 第3回：外国人と災害 第4回：外国人と医療 第5回：外国人と教育 第6回：やさしい日本語、ポルトガル語を学ぶ意義 第7回：基本的なあいさつ表現 第8回：アルファベットの読み、名前の尋ね方と答え方、会話練習、ブラジル人の名前の紹介 第9回：ポルトガル語特有の発音のルール（1）、ブラジル人特有の文字や数字の書き方紹介 第10回：ポルトガル語特有の発音のルール（2）、アクセントの位置、ブラジルの音楽紹介 第11回：職業、出身、国籍、婚姻関係に関する受け答え、ロールプレイ、会話練習 第12回：年齢、趣味、使用言語、居住地に関する受け答え、ロールプレイ、会話練習 第13回：誕生日、電話番号、数字の聞き取り練習、ポルトガル語で自己紹介のための作文 第14回：ポルトガル語で自己紹介 第15回：今学期の復習 ※授業で用いるポルトガル語表現と数字、日付、曜日、時間の表現については、毎授業、繰り返し扱います。

アクティブラーニング	本授業では、授業の前半部の文化の部分、ならびに、後半部の語学の部分のいずれにも、必要に応じて、グループ（ペア）ワーク、ロールプレイを取り入れます。
授業内のICT活用	授業テーマに関連するDVDを見せ、視覚に訴えかけることで、知識の定着をはかる。
評価方法	小テスト 50%（毎回、確認の小テストを実施）、定期試験 50%
課題に対するフィードバック	小テストの返却、解説
指定図書	なし
参考図書	兼安シルビア典子（2014）『Descobrimos o Brasil ブラジルを発見！』同学社
事前・事後学修	事前学修（第1回目～第14回目）： 次回、授業で取り上げる学習内容に関する課題を行うこと。次回扱う学習項目をあらかじめ読み、わからないところがあれば、何がわからないのかを自分で把握しておくこと。 事後学修（第1回目～第14回目）： 初回を除き、毎回、授業の最初に小テストを実施するため、授業で習った内容についてよく復習しておくこと。期末試験に向けて、総復習をすること（第15回目）。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	なし

科目名	現代の国際社会
科目責任者	馬場 孝
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	「現代の国際社会」の諸側面に、国際関係論と国際関係史の二つの角度からアプローチする授業です。前半が理論編、後半が歴史編です。前半では社会現象をどのように捉えるかというツールのいくつかを紹介し、国際社会の諸現象の分析を行います。後半は簡単で読みやすいテキストを手がかりに、資料、映像、講義で補いつつ、第2次大戦後の国際社会の流れをつかむことを目標とします。
到達目標	1. 国際社会をとらえる理論的なアプローチの基本を理解する 2. 第2次世界大戦以後の国際関係の大きな流れの大筋をつかむ 3. 現代の国際社会が直面する課題について関心を持つ
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：現代はどのような時代か？ 授業全体ならびにテキストへの導入 1 章 <理論編> 第 2 回：国際関係論における分析のレベル 第 3 回：世界システム論の射程 第 4 回：戦争の原因について 第 5 回：ゲームの理論の概略と国際関係 第 6 回：ゲームの理論の適用事例：朝鮮半島情勢 <歴史編> 第 7 回：冷戦の起源 2 章、3 章、4 章 第 8 回：冷戦のアジアへの波及 5 章、6 章 第 9 回：パレスチナ問題 7 章 キューバ危機 8 章 第 10 回：激動の中国 文化大革命から改革・開放へ：9 章、14 章 第 11 回：インドシナ戦争 10 章、11 章 第 12 回：冷戦の終結とソビエト連邦の崩壊：12 章、13 章 第 13 回：相互依存の深化 15 章、16 章 第 14 回：統合と分裂の世界：17, 18 章 第 15 回：歴史の流れからみる「現代の国際社会」 まとめ

アクティブ ラーニング	全体的に講義においてはグループ・ディスカッション方式を活用する。理論編では「国際社会の特色をどのように捉えるか」「ゲームの理論の体験」の2回において海外の授業（国際関係論）で紹介されている方法を試みる。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業への参加態度 10%、小テストを含む課題の提出 10%、筆記試験 80%
課題に対す るフィード バック	課題、小テストの回答、ディスカッションへのコメントはすべて授業中に行う。
指定図書	池上彰『そうだったのか、現代史』集英社文庫、2007 年。
参考図書	授業中に指示する
事前・ 事後学修	「理論編」では配布資料の事前、事後の講読ならびに「歴史編」開始時までにテキストを一読しておくことを課題とする。「歴史編」では進行に応じて小テストを随時行う。1 回の授業あたり 40 分を目安とする。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	edX, Coursera, JMOOC 等のリソースから「無料」「日本語」あるいは字幕が完備し、授業内容を補完するプログラムがあれば適宜紹介する
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	無し

科目名	文化人類学
科目責任者	佐藤 弘明
単位数他	2単位（30時間） 選択 春
DP番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	私たちは自らの社会が世界の中心と考えたがる。しかし、人類ほど多様な自然環境、多様な社会文化的環境下で生活する生物はいない。グローバリゼーションが進む一方、社会の分断化も見られる現在、自らの社会を相対的視座から理解することは必須である。本科目は人類の多様な生活様式・社会組織・制度・医療等の例示を通して、日本の社会・文化の理解を図る。
到達目標	1. 人間の進化を説明できる。 2. 人間の多様な生活様式に関する知識を獲得する。 3. 人間の社会構造について説明できる。 4. 現代日本の家族・社会構造について説明できる。 5. 医療文化に関する知識を習得する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：ヒトの進化（生物としてのヒト） 第2回：ヒトの進化（文化をもつ人間の進化） 第3回：人種と民族（ヒトの違いとは） 第4回：人類諸社会の生計活動と生活様式（農耕開始以前、人間はどう生きていたか） 第5回：人類諸社会の生計活動と生活様式（農耕開始以降、人間はどう生きてきたか） 第6回：人類諸社会の親族構造・出自慣習（オヤコ、シンセキとは） 第7回：人類諸社会の親族構造・出自慣習（オヤコ、シンセキとは） 第8回：人類諸社会の婚姻体系と家族（家族とは） 第9回：現代日本の家族（日本の家族の過去と現在） 第10回：現代日本の家族（日本の家族はどう変わったか） 第11回：現代日本の家族（日本の家族はどこへ行く） 第12回：現代日本における高齢者（伝統社会との比較を通して） 第13回：医療と文化（病と疾病の違い） 第14回：医療と文化（医療は社会・文化的行動） 第15回：医療と文化（医療は社会・文化的行動）

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	定期試験 100%の結果で評価する。ただし、受講態度（出席、質問等）を加点要素とします。 定期試験の成績しだいでは、授業中作成したノートの提出を求めることがある。
課題に対するフィードバック	定期試験の解答を例示します。
指定図書	使用しない。
参考図書	授業中、随時知らせます。
事前・事後学修	講義内容をよりよく理解するには質問が必須です。質問のためには授業前後にノートの再読が必要です。少なくとも 30 分はかけてください。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	国際支援入門
科目責任者	柴本 勇
単位数他	1 単位（15 時間） 選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	保健医療福祉教育の発展が著しい現代社会であるが、ひとたび世界的視点で考えると各国や地域で状況が異なる。その特異性はその国の歴史・経済・価値観・宗教観を基本としている。グローバル社会で活躍する上では、これら各国や地域の状況を理解して臨機応変に対応できる基本的対応力やコミュニケーション力が求められる。本科目では、将来それぞれの国、地域で保健医療福祉教育の専門家として活動する基礎を学ぶ。国際状況、課題解決方法、国際活動に伴うリスク管理、専門性と協働、生活力、を理解する。また、本科目では将来必要なディスカッションの経験を重視する。加えて、本学が行っている国際支援プロジェクトを紹介すると同時にさらに発展する活動を検討する。本科目は、グループワークを通じて学ぶ。
到達目標	1. 他者を全人的に受け入れ、共にコミュニケーションをとり活動できる。 2. 国際支援を行う上で必要なことを列挙できる。 3. 本学が実施している国際プロジェクトに対して提案ができる。 4. 保健医療福祉教育専門職として国際支援活動内容を抽出する方法論を説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回： オリエンテーション・グローバル社会と国際支援 第2回： 国際的に活躍する上で必要な基本的知識と態度（ディスカッション） 第3回： 本学国際プロジェクトとその発展（グループワーク） 第4回： 本学国際プロジェクトとその発展（提言発表） 第5回～7回： グループワーク・フィールドワーク テーマ：保健医療福祉教育職が行う支援 以下の2つのいずれかを選択し、第8回目に発表。 【グループワーク】 グループで保健医療福祉教育専門家として行う国際プロジェクトを設定し、以下の3つの役割を決めてディスカッションし、その経過や状況を発表。 ①「支援を提供する側」：支援を提供する側として準備や具体的活動内容を検討提案 ②「支援を受ける側」：支援を受け入れる側として準備や具体的活動内容を検討 ③「国際支援を調整する機関（NGO・国の機関・大学）側」：本プロジェクトを成功するためにどのような調整をするのかを検討し提案 【フィールドワーク】 学外に出かけ、自身のグループが解決できそうな課題を見出し、その解決方法を提案する。 第8回： 各グループからの提言発表。国際支援についてクラス全体討議。

アクティブ ラーニング	グループ学修・ディスカッション形式で行います。
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。
評価方法	グループワーク 50%、事後レポート 30%、グループ発表 20% グループワークとレポートは、ルーブリックに基づいて確認する
課題に対す るフィード バック	毎回の講義後にはリフレクション時間を設け、ディスカッションを行います。
指定図書	なし
参考図書	適宜紹介する
事前・ 事後学修	Moodle を利用して、学修課題等を提示します。事後学修課題は授業の際に提示します。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	随時 3 号館 4 階 3408 研究室 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。 メール isamu-s@seirei.ac.jp でも対応します。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	国際支援アクティブラーニングⅠ
科目責任者	柴本 勇
単位数他	1 単位 30 時間 選択 2 年次春semester～2 年次秋semester開講
DP 番号と科目領域	DP 7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	本科目は、国際支援活動を行っている本学の国内プロジェクトに受講学生が参加し、実践活動を通じて国際支援の概念、活動方法、活動評価法などを主体的に学ぶものである。また、国際支援活動を通じて、対人援助の概念、国際文化や日本文化の理解、語学力の向上も図る。自ら課題の抽出から開始し、活動の企画、提案、実行、振り返りを行う。主体的実践学習を通じて、保健医療福祉教育領域で活動する専門職として課題解決方法を教授する。 ※本科目の履修に先立ち、1 年次春semester開講の「国際支援入門」を履修することが望ましい。
到達目標	1. 他者を全人的に受け入れ、共にコミュニケーションをとり活動できる。 2. 保健医療福祉教育の専門職者として国際支援ニーズを抽出することができる。 3. 国際支援プロジェクト活動で課題解決に向けて実践することができる。 4. 国際支援プロジェクトでの支援内容と方法を主体的活動から理解し説明することができる。
授業計画	<担当教員名> 柴本勇 太田雅子 秋山恵美子 高橋大生 <授業内容・テーマ等> 第 1 回（全体）：国際支援活動を通じた人への奉仕とその実践 第 2 回（全体）：国際支援活動におけるリスクとその対応 第 3～13 回：支援活動の実施 ■<u>プロジェクト1：地域で暮らす外国人支援</u> （プロジェクトリーダー：秋山恵美子助教） 本プロジェクトでは、多国籍の在留外国人に正確な情報提供できるように、多言語の Website を立ち上げる。コンテンツは、法律、医療、教育、市民サービス、ごみの出し方などの生活に関すること、文化、歴史、飲食店情報、イベント情報などの情報提供を行う。また、浜松地区の大学の留学生と交流会を開催し、交流、情報提供、情報収集を行う。 ■<u>プロジェクト2：インド保健福祉支援活動プロジェクト</u> （プロジェクトリーダー：太田雅子教授） インド聖隷希望の家の働きや支援のためのニーズを理解して、自分たちができる支援方法を検討・計画して実践する。インターネット電話等を用いて、施設長・利用者の人々と対話をしながら現状理解を行い、支援計画を作成し、実行する（支援物資協力の呼びかけ、受取・送付等）。 第 14～15 回（全体）：活動報告会、まとめ

アクティブ ラーニング	ゼミ形式で行う演習科目です。
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションを、プロジェクターを利用して行います。
評価方法	実践準備 (20%)、 活動内容 (50%)、 報告会の内容 (20%) レポート (10%)
課題に対す るフィード バック	毎回の実践に合わせてフィードバックを行います。
指定図書	なし
参考図書	随時紹介します。
事前・ 事後学修	各回の実践に合わせて活動計画、振り返りが必要となります。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	各教員が初回実習活動時にお知らせします。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	国際支援アクティブラーニングⅡ
科目責任者	柴本 勇
単位数他	1 単位 30 時間 選択 2 年次春semester～2 年次秋semester開講
DP 番号と科目領域	DP 7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	本科目は、本学の国外プロジェクト（カンボジア、ベトナム、アメリカ）に受講学生が参加し、主体的実践活動を通じて国際支援について学ぶものである。本科目は、国外で実施し、受講学生は対象国の歴史、文化、危機管理、安全対策、語学、対人援助の概念から、具体的支援の抽出、立案、実行までを主体的実践活動を通じて学ぶ。歴史や文化の異なる地域で、各々の専門分野を超えた本質的な支援活動の理解と実践、コミュニケーション力、リーダーシップを教授する。 ※本科目の履修に先立ち、1 年次春semester開講の「国際支援入門」を履修することが望ましい。
到達目標	1. 他者を全人的に受け入れ、共にコミュニケーションをとり活動できる。 2. 保健医療福祉教育の専門職者として国際社会のニーズを現地で抽出することができる。 3. 国際支援プロジェクト活動で課題解決に向けて実践することができる。 4. 国際支援プロジェクトでの支援内容と方法を主体的活動から理解し説明することができる。
授業計画	<担当教員名> 柴本勇 鈴木光男 大原重洋 中島ともみ 仲村秀子 <授業内容・テーマ等> 第 1 回（全体）：国際支援活動を通じた人への奉仕とその実践 第 2 回（全体）：国際支援活動におけるリスクとその対応 第 3～13 回：支援活動の実施 ■<u>カンボジア JH プロジェクト</u>（プロジェクトリーダー・鈴木光男教授） 本プロジェクトでは、ジャパンハート病院（カンボジア）での生活・体験を通して、現地のヘルスシステム、医療、健康、社会福祉、保育・教育などの問題を把握し、住民の医療・健康・教育の向上のために看護やリハビリテーション、福祉、教育の機能を発揮できるように主体的・能動的に現地のスタッフや患者、住民などに関わることを主たる目的・内容とする。これらの国際支援実践を通して、それぞれの専門性について考え、自らの専門職観を深めるものである。また、国際医療・保健・福祉に携わる専門職にふさわしい生活態度やマナーを身につけると共に、自分の健康と安全を管理する方法を身につける。 ■<u>ベトナム保健福祉支援プロジェクト</u>（プロジェクトリーダー・中島ともみ准教授） 現地法人とともに、本学の教員、学生が、ベトナムで実践型海外医療ボランティアインターンシップを行い、国際医療支援について考え、看護、社会福祉、リハビリテーションが協働して国際医療支援の経験を積むことが主な内容である。ベトナムの医療システムが未発達な地域で、現地の看護師、リハビリテーション技士の元、患者の評価や治療の手伝い、患者の生活の支援をする。支援の対象となるベトナムの患者にとっても意味のあるものであり、現地スタッフのみならずの現地住民とのコミュニケーションのなかで、「生命の尊厳と隣人愛」を学ぶ。 ■<u>アメリカ地域支援実践プロジェクト</u>（プロジェクトリーダー：大原重洋教授） このプロジェクトでは、アクティブラーニングの手法を用いて、海外（アメリカハワイ州）の保健医療福祉施設（St. フランシス保健福祉医療システム）におけるボランティア活動を計画し、実践する。一連の活動を通じて、奉仕の精神と、対人援助についての普遍的な価値観と手法を学ぶ。 第 14～15 回（全体）：活動報告会、まとめ

アクティブ ラーニング	ゼミ形式で行う演習科目です。
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションを、プロジェクターを利用して行います。
評価方法	実践準備（20%）、活動内容（50%）、報告会の内容（20%）、レポート（10%）
課題に対す るフィード バック	毎回の実践に合わせてフィードバックを行います。
指定図書	なし
参考図書	随時紹介します。
事前・ 事後学修	実践活動に向けた活動準備、活動期間中の振り返りが必要となります。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	各教員が初回実習活動時にお知らせします。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	地域ケア連携の基礎
科目責任者	炭谷 正太郎
単位数他	1 単位（15 時間） 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	専門領域を超えて互いに学び合うことから、相互理解を深めて、保健医療福祉分野におけるそれぞれの専門職の役割や専門性を尊重する姿勢を身につける。またグループ活動を通して、対人援助における多職種連携・協働の必要性を理解し、多角的なものの見方ができるようになることをねらいとする。
到達目標	1. 対人援助職としての知識・技術を同じキャンパスで共に学ぶ仲間である、という意識をもち、相互に交流することができる。 2. 春セメスターの授業や実習体験を踏まえて、各自が目指す専門職の特徴と役割の概要を自分の言葉で説明できる。 3. 4 年次生や教員のプレゼンテーション、映像学習を通して、多職種連携を必要とする対象や場面、および他学部領域の専門職の役割・特徴について知ることができる。 4. なぜ専門職連携が必要か、および専門職連携をうまく行う上での注意点について考えることができる。 5. グループワークに主体的に参加する姿勢から、専門職連携についての意識づけができる。 6. グループワークによる学びを整理、統合し、各自が目指す専門職の役割と連携の必要性について、気づいたことや今後に向けての自己の学習課題をレポートすることができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 看護学部：炭谷正太郎 （プレゼンテーション担当）神崎江利子、藤浪千種、伊藤純子 社会福祉学部：川向雅弘、福重浩之 （プレゼンテーション担当）大場義貴、井川淳史、秋山恵美子、坂本道子 リハビリテーション学部：俵祐一、鈴木達也 （プレゼンテーション担当）高橋大生、藤田さより、谷哲夫 【2 日間の集中授業とする】 第 1～4 回（第 1 日） 1. 中グループ（学部混成で 1 グループ約 60 名）ごとのオリエンテーション。 2. 小グループ（学部混成で 1 グループ約 6 名）での自己紹介。春セメスターの学修等をふまえ、各専門職の役割について感じることを話し合う。 3. 大グループ（学部混成で 1 グループ約 120 名）ごとに、各学部の 4 年生（3 名）から専門職やその学びについてプレゼンテーションを受ける。専門職の連携・協働に関する事例を視聴覚教材から学ぶ。 4. 小グループごとに、4 年生のプレゼンテーションや事例をもとに、専門職の役割や連携について話し合い、まとめの中間レポートを作成・提出する。 第 5～8 回（第 2 日） 1. 大グループごとに、各学部の教員（3 名）から専門職の仕事、役割、連携・協働についてプレゼンテーションを受ける。 2. 各学部の教員によるシンポジウムを受け、専門職連携の実際や課題について学びを深める。 3. 小グループに戻り、さらに「専門職連携」についてディスカッションを行い、まとめる。 4. 中グループごとに発表会を行い、各小グループでの 2 日間の学修の結果を発表する。 5. 学んだことを各自が最終レポートにまとめる（授業終了後に作成し、後日提出する）。 #2 日間の集中講義のため、遅刻、欠席、早退は原則として認めない。 #第 1 日目の学部混成によるグループワークにおいて、所属学部についてメンバーに紹介する時間がある。その際に役立つと思うテキストや資料を、各自で選択し持参すること

アクティブ ラーニング	3 学部合同のグループ討議活動である。
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行う。
評価方法	最終レポート 50%、授業態度・参加状況 50%。 また、小グループごとの中間レポート提出を必須とする。
課題に対す るフィード バック	ディスカッションやグループ発表時に、担当教員からのコメントがある。
指定図書	授業時に「受講の手引き」ほか資料を配布する。
参考図書	青木 紀「ケア専門職養成の研究」赤石書院
事前・ 事後学修	1. 授業前に配布する当科目の連絡事項をよく読み、各自、事前ワークシートを 40 分程 度かけて記載する(第 1 日目の授業時に持参する)。 2. 授業後は、配布資料等を見直し、40 分程度かけて最終レポートを作成する。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	看護学部学部所属の炭谷研究室(1610 研究室)にて、自由に相談に応じるオフィスア ワーを設定します。月曜日 11 時～13 時ですが、予約は不要です。会議などで不在に なる場合がありますが、メールなどでご連絡いただければ調整します。syoutarou- s@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」「保健師」「社会福祉士」「介護福祉士」「理学療法士」「作業療法士」 「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。

科目名	地域実践アクティブラーニングⅠ
科目責任者	矢倉 千昭
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 1 年次秋 Semester ～ 2 年次春 Semester 開講
DP 番号と科目領域	DP 7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	地域の中の保健医療福祉の大学として、行政機関、NPO 法人、地域の住民組織等と連携し人々が持つ個々の課題、人々が暮らす地域の課題解決のため、テーマを設定して看護学部、社会福祉学部、リハビリテーション学部の学生と教員が、それぞれの特徴を活かし協働して地域活動を行う科目である。学外の多くの人との交流体験により、地域共生社会の意義を学び、連携に必要な専門職としてのコミュニケーション技術の向上を目指す。
到達目標	1. 地域活動を通して、人々を生活者として捉えることができる。 2. 地域のニーズを、体験的に理解することができる。 3. 専門職、NPO 法人、地域の人々と連携し、地域で生活する人々の課題解決のために何が必要か教員と共に検討することができる。 4. 地域共生社会の実現に向けて、自分たちの活動の意義を説明することができる。 5. 連携に必要な専門職としてのコミュニケーション技術を向上させることができる。 6. 学生間の交流を通して、各自の学びを深めることができる。
授業計画	<担当教員名> 矢倉千昭、野崎玲子、伊藤純子、太田雅子、福田俊子、鈴木光男、和久田佳代、落合克能、伊藤信寿、根地嶋誠、田中真希、矢部広樹、高橋大生、村松美恵、氏原恵子、若杉早苗 <授業内容・テーマ等> ※授業の詳細は「地域ケア連携の基礎」の最終日にお知らせします。 第 1 回 (全体) : ・オリエンテーション 10 月 ・プロジェクトの選択方法や履修方法の説明 ・教員の活動のプレゼンテーションより、学生は自分の参加するプロジェクトを選択する。 ・活動の基本となる考え方として「地域共生社会」についての講話 第 2 回 : チーム作り、活動計画立案 第 3～4 回 : 活動実施① 第 5 回 : 活動評価① 第 6～7 回 : 活動実施② 第 8 回 : 活動評価② 第 9～10 回 : 活動実施③ 第 11 回 : 活動評価③ 第 12～13 回 : 報告会準備 第 14～15 回 (全体) : 活動報告会、まとめ 9 月 *最低 3 回は地域に出て活動します。

アクティブ ラーニング	ゼミ形式で行われる、演習科目です。
授業内の ICT 活用	最終日の活動報告会は、活動グループで発表し、プレゼンテーションはプロジェクターを使って行います。
評価方法	活動計画書 (20%)、 活動内容 (50%)、 報告会の内容 (20%) 全体的な取り組み態度 (10%)
課題に対す るフィード バック	活動計画作成時、毎回の活動終了後などでフィードバックを行います。
指定図書	なし
参考図書	随時紹介します。
事前・ 事後学修	活動計画作成時、活動終了後に各担当教員より提示します。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	オリエンテーション時に、各担当教員より提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師・看護師・理学療法士・作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	地域実践アクティブラーニングⅡ
科目責任者	矢倉 千昭
単位数他	1 単位（30 時間） 選択 2 年次秋セメスター～3 年次春セメスター開講
DP 番号と科目領域	DP 7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	地域の中の保健医療福祉の大学として、行政機関、NPO 法人、地域の住民組織等と連携し人々が持つ個々の課題、人々が暮らす地域の課題解決のため、テーマを設定して看護学部、社会福祉学部、リハビリテーション学部の学生と教員が、それぞれの特徴を活かし協働して地域活動を行う科目である。学外の多くの人との交流体験により、地域共生社会の意義を学び、連携に必要な専門職としてのコミュニケーション技術の向上を目指す。
到達目標	1. 地域活動を通して、人々を生活者として捉えることができる。 2. 地域のニーズを、体験的に理解することができる。 3. 専門職、NPO 法人、地域の人々と連携し、地域で生活する人々の課題解決のために何が必要か教員と共に検討することができる。 4. 地域共生社会の実現に向けて、自分たちの活動の意義を説明することができる。 5. 連携に必要な専門職としてのコミュニケーション技術を向上させることができる。 6. 学生間の交流を通して、各自の学びを深めることができる。
授業計画	<担当教員名> 矢倉千昭、野崎玲子、伊藤純子、太田雅子、福田俊子、鈴木光男、和久田佳代、落合克能、伊藤信寿、根地嶋誠、田中真希、村松美恵、氏原恵子、若杉早苗 <授業内容・テーマ等> ※授業の詳細は「地域ケア連携の基礎」の最終日にお知らせします。 第 1 回（全体）：・オリエンテーション 10 月 ・プロジェクトの選択方法や履修方法の説明 ・教員の活動のプレゼンテーションより、学生は自分の参加するプロジェクトを選択する。 ・活動の基本となる考え方として「地域共生社会」についての講話 第 2 回： チーム作り、活動計画立案 第 3～4 回：活動実施① 第 5 回：活動評価① 第 6～7 回：活動実施② 第 8 回：活動評価② 第 9～10 回：活動実施③ 第 11 回：活動評価③ 第 12～13 回：報告会準備 第 14～15 回（全体）：活動報告会、まとめ 9 月 *最低 3 回は地域に出て活動します。

アクティブ ラーニング	ゼミ形式で行われる、演習科目です。
授業内の ICT 活用	最終日の活動報告会は、活動グループで発表し、プレゼンテーションはプロジェクターを使って行います。
評価方法	活動計画書 (20%)、 活動内容 (50%)、 報告会の内容 (20%) 全体的な取り組み態度 (10%)
課題に対す るフィード バック	活動計画作成時、毎回の活動終了後などでフィードバックを行います。
指定図書	なし
参考図書	随時紹介します。
事前・ 事後学修	活動計画作成時、活動終了後に各担当教員より提示します。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	オリエンテーション時に、各担当教員より提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師・看護師・理学療法士・作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ボランティア論
科目責任者	福田 俊子
単位数他	1 単位（15 時間） 選択 春
DP 番号と 科目領域	DP7 教養基礎
科目の 位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	現代社会において、その役割が大きく期待されているボランティアについて、その理念や原則、発展過程、また活動に参加することの意義や目的、現状、近年の議論等について学ぶ。そしてその学びを踏まえてボランティア観を身につけ、ボランティア活動に主体的に参加することを目指す。
到達目標	1. ボランティアの基礎概念について理解できる 2. ボランティアに参加することの意義、目的について自覚できる 3. ボランティアの活動分野や現状について理解できる 4. ボランティア活動への関心、主体的な参加意欲を高める
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション、初回アンケート ボランティアの語源、我が国におけるボランティア活動の現状 第2回：本科目履修者のボランティア活動の実態 ボランティア活動が有する性格、グループ討議 「ボランティアらしさとは？」 第3回：ボランティアを支える理念、定義 第4回：ボランティアの発展過程 第5回：グループ討議 「24時間テレビを考える」 第6回：ボランティア受け入れ側の考え ゲストスピーカー 杉本和美氏（地域支援ネットゆう） 第7回：現代社会におけるボランティアの意義 第8回：ボランティア活動に参加するために―態度とルール― 聖隷クリストファー大学ボランティアセンターの役割と実際

アクティブラーニング	グループ討議などを取り入れる
授業内のICT活用	ICT 機器を利用し、履修者のボランティアに関する意見を確認する双方向型授業を実施する
評価方法	授業への参加態度 30%、レポート 70% レポートはルーブリックを用いません。
課題に対するフィードバック	グループ討議等の結果やリアクションペーパーに対してフィードバックする。
指定図書	授業中に、随時資料等を配布する。
参考図書	授業中に、随時資料等を配布する。
事前・事後学修	<事前学修> ・第2回授業には、アンケート調査に回答すること。 ・第5回授業には、事前に配布した資料に目を通して、事前課題に取り組むこと。 <事後学修> ・毎回、事後学修課題を提示するので期日までに WebClasse に入力すること。 (事前・事後学修 40 分)
オープンエデュケーションの活用	第5回の授業では、TED (Technology Entertainment Design) のカンファレンスを使用する。
オフィスアワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。

科目名	ボランティア演習
科目責任者	小林 マヤ
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 秋
DP 番号と科目領域	D P7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	「ボランティアとは何か」を理解するために、実際にボランティア活動を体験して、そこから自分の生き方と社会の在り方を考える。 本科目は、学生のボランティア活動を推進する目的から、ボランティア活動に対して「単位」の認定を行うものであり、認定対象となるボランティア活動とは、無償の社会福祉、社会貢献活動をさす。
到達目標	ボランティア活動を実際に体験し、ボランティア論で学んだ理論を振り返り、自分の活動や他の履修者の活動報告を通して社会と人間について学ぶとともに、生涯に亘るボランティア活動の精神を身につける。
授業計画	【担当教員名】 社会福祉学部：坂本道子 リハビリテーション学部：小林マヤ 【単位認定】 単位認定希望者（30 時間・5 日間以上※1 のボランティア活動に対して認定する）は、単位認定申請書を提出する。その際、自分自身が社会福祉施設、社会福祉協議会、その他の社会福祉活動を行う団体等において既に行ったボランティア活動実績※2 を証明するための「ボランティア活動記録」※3 および「ボランティア活動記録簿」を併せて提出する。また、ボランティア活動の内容を「ボランティア活動報告会（毎年 12 月頃に開催する予定）」において報告する。 ※1 遠方での災害ボランティアに関しては、移動日も活動日に算定可能。 ※2 履修登録以前の実績（本学入学後）であっても、活動実績を証明できれば有効。 ※3 活動の内容、日付、時間等を記載し、主宰者等の証明印をもらうための様式。 【履修・ボランティア活動に関するオリエンテーション】 本科目履修者は、「履修に関するオリエンテーション」に参加し、本科目の意義、目的、単位認定の方法・過程について理解、把握する。 特に、「ボランティア論」未履修者およびボランティア未経験者は、オリエンテーション時に説明するボランティア活動を行う上での心構えや注意すべき点などの理解に努めること。また、ボランティアに関する自主学習や（活動先の情報等の）事前確認など、実際にボランティア活動を行う上で必要となる準備作業を十分に行うこと。 【ボランティア保険】 ボランティア活動を行う場合、事前に必ずボランティア保険※4 に加入する。 ※4 ボランティア保険への加入は、春・秋セメスター当初の指定の期間にボランティアセンターで手続き可能（自費 350 円程度）。この時期に加入できなかった場合は、最寄りの社会福祉協議会でボランティア保険に加入する。

アクティブ ラーニング	自らボランティア活動を探し、参加することで、ボランティア活動に対する能動的な学習を行います。
授 業 内 の ICT 活用	特に無し
評価方法	ボランティア活動記録および活動報告書の提出、ボランティア活動報告会への参加状況により、単位認定の可否を判断します。
課題に対す るフィード バック	ボランティア活動報告会にて口頭でフィードバックします。
指定図書	なし
参考図書	オリエンテーション時に資料を配布します。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	特に無し。
事前・ 事後学修	ボランティア活動を行う上での心構えや注意すべき点を理解するために、自主学習や（活動先の情報等の）事前確認などをしてください。目安時間 40 分。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部言語聴覚学科 研究室：3402 研究室 在室時は随時対応します。 不在時はメール（maya-k@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	特になし。

科目名	大学間交流授業
単位数他	2単位（30時間） 選択 秋
DP番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	大学間交流授業は、ふじのくに地域・大学コンソーシアム西部地域連携事業実施委員会主催の共同授業です。 静岡県西部地域の大学が協力し、統一テーマのもとに授業を行います。参加する大学の講師陣がそれぞれの特徴を生かし、オムニバス形式の講義を展開します。 この大学間交流授業を履修し、修得した単位は本学の単位として認定されます。 ふじのくに地域・大学コンソーシアムのホームページをご覧ください。
到達目標	—
授業計画	<授業内容・テーマ等> 履修希望者は、2020年度春semester中に教務事務センターから公表する募集要項等を確認してください。ふじのくに地域・大学コンソーシアム西部地域連携事業実施委員会への応募を行わない場合、秋semesterへの履修登録ができませんのでご注意ください。

アクティブ ラーニング	－
評価方法	毎回の試験やレポートが課せられます。
課題に対するフィード バック	－
指定図書	なし
参考図書	
事前・ 事後学修	－
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	－

科目名	専門職連携演習
科目責任者	福田俊子
単位数他	1 単位（30 時間） 選択 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 看護学部：看護専門領域・看護の統合科目 社会福祉学部：専門領域・専門科目 リハビリテーション学部：教養基礎領域・総合科目
科目の位置付	保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	これまでの学習や経験を再認識し活用して、他学部学生とともに事例検討を行い、対人援助における専門職連携・協働の実際を体験し、その意義と実践方法について理解を深める。
到達目標	1. これまでの体験（講義・演習・実習など）から、専門職連携・協働における各自の役割やその必要性、重要性を自分の言葉で語り、他者と共有することができる。 2. グループワークにおいて事例を作成し、対象者の視点から連携・協働における専門職の役割を考えることができる。 3. 各グループの発表を通して、多面的な視点から専門職連携・協働の意義、およびその実践方法について考察しまとめることができる。
授業計画	<担当教員> 看護学部：山村江美子、豊島由樹子、村松美恵、清水隆裕 社会福祉学部：福田俊子、飯田真也、和久田佳代、野田由佳里 リハビリテーション学部：佐藤順子、矢倉千昭、矢部広樹、富沢涼子 <授業内容・テーマ等> 第 1・2 回（1 日目午前）：全体講義、オリエンテーション ・各自の体験（講義・演習・実習など）から専門職連携を考える ・各学部学生（複数名を選出）のプレゼンテーションとディスカッション 第 3・4 回（1 日目午後）：グループワーク 第 5～7 回（2 日目午前）：グループワーク 第 8～9 回（2 日目午後）：事例についての中間報告会 第10～12 回（3 日目）：グループワーク ・事例のアセスメントに基づく援助計画の検討 ・発表の準備 第13～15 回（4 日目）：全体報告会・ロールプレイ等による事例・学びの報告

アクティブ ラーニング	少人数グループにおいて意見交換、意見発表を行う。 毎時間後、Moodle によるフィードバックを行う。
授 業 内 の ICT 活用	WebClass を利用する。 グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行う。
評価方法	発表・発言等の平常点 40%・レポート 60% ＜レポート＞ ・テーマ：「専門職連携・協働の意義、およびその実践について」 ・様式等：A4用紙 1800～2000 文字程度 ・レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対す るフィード バック	提出物・発表等に対するフィードバックは、授業中に行う
指定図書	「IPW(Interprofessional Work;専門職連携)」 「協働」 「チームアプローチ」をキーワードに文献等にあたることを勧める。
参考図書	授業にて紹介する。
事前・ 事後学修	＜事前学修＞ 第 2～12 回では、指定された事前課題を準備する。 これまでの学習・実習を振り返り各自の専門職の役割や機能について考えておく。 目安時間 40 分。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	特になし。
オフィス アワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスア ワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に 関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を 踏まえて教授する科目である。